

平成25年度

文部科学省 科学技術総合研究委託事業

「科学技術イノベーション政策における「政策
のための科学」推進事業」の普及・広報活動の
在り方に関する調査」

報告書

2014年3月31日

株式会社 電通パブリックリレーションズ

本報告書は、文部科学省の科学技術総合研究委託事業による委託業務として、株式会社電通パブリックリレーションズが実施した平成25年度「科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」推進事業」の普及・広報活動の在り方に関する調査」の成果を取りまとめたものです。

目 次

| | |
|------------------------------------|----|
| <u>1. 「政策のための科学」事業広報に関する調査実施概要</u> | 3 |
| 1) 目的 | 4 |
| 2) 進め方 | 4 |
| 3) 実施・結果概要 | 5 |
| <u>2. 推進事業に対する機関の関心を喚起する手法の調査</u> | 10 |
| (1) 広報課題抽出のための調査 | 11 |
| 1) 既存資料分析 | 11 |
| 2) ヒアリング調査 | 18 |
| 3) 広報課題 | 25 |
| (2) 調査結果 | 31 |
| 1) 広報戦略の策定 | 31 |
| 2) 広報アクションプラン | 40 |
| <u>3. ポータルサイトの改善・充実</u> | 52 |
| (1) 現行サイトの評価（ヒューリスティック調査） | 53 |
| 1) 調査概要 | 53 |
| 2) 調査結果 | 54 |
| 3) まとめ | 69 |
| (2) 改善サイト（案）の構成 | 70 |
| 1) サイトマップ | 70 |
| 2) HOME | 71 |
| 3) カテゴリーインデックスページ | 72 |
| 4) 下層詳細ページ | 73 |
| 5) 活動内容 | 74 |
| 6) 活動内容の情報自動集約表示について | 77 |
| 7) イベントカレンダー | 78 |
| 8) 成果・資料 | 79 |
| 9) ソーシャルトーク | 80 |
| 10) インタビュー | 81 |
| 11) ニュースレター | 82 |

1. 「政策のための科学」事業広報に関する調査実施概要

1) 目的

民間企業を中心とする、これまで推進事業との関連がほとんどなかった機関に対して、科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」推進事業（SciREX： Science for RE-designing Policy）の理念及び推進事業について、理解を促し、関心を喚起するための手法を調査するとともに、その結果を踏まえ、既存のポータルサイトの改良を行う等、実践することにより適切な普及・広報の在り方について分析することを目的とする。

2) 進め方

①推進事業に対する機関の関心を喚起する手法の調査

【広報課題抽出のための調査】

- 既存資料分析
- ヒアリング調査



【広報課題の抽出】 調査結果をもとに、課題を整理。



【広報戦略の策定】 広報の目的、ターゲット、媒体、メッセージなどを整理。



【広報アクションプランの提案】 ターゲットの理解・関心につながる手法を提示

②ポータルサイトの改善・充実

【広報課題抽出のための調査】

- 現行サイトの評価（ヒューリスティック調査）
- 既存資料分析
- ヒアリング



【改善サイト（案）の構成】

【現行のポータルサイトの充実、更新】

3) 実施・結果概要

①推進事業に対する機関の関心を喚起する手法の調査

【広報課題抽出のための調査】

● 既存資料分析

<対象資料>

- ・ 平成 24 年度科学技術総合研究委託事業「科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」で取り組むべき社会的課題、並びに拠点における人材育成プログラムに対する潜在的ニーズ及び育成される人材のキャリアパス形成に関する調査・分析」に関する報告書
- ・ 前述のアンケート調査を作成するために予備調査として行った訪問調査（民間企業、自治体、公設試験研究機関、大学を訪問）に関する報告書
- ・ 「科学技術イノベーション政策のための科学推進委員会」（以下『推進委員会』）の議事録
- ・ 他省庁や行政機関が取り組んだ類似の広報改善プロジェクトの事例

<結果概要>

- ・ アンケートで多くの民間企業や研究機関などが「プロジェクトをマネジメントできる人材教育を国の支援策として期待している」と回答。本事業のどのような点に期待があるか、把握した。
- ・ ただし、アンケート回収率の低さから、「科学技術イノベーション政策のための科学」という表現がコミュニケーションの障壁要因になっているとの指摘もあった。
- ・ 訪問調査では、本事業で異なる習慣・文化を持った機関や業界の融合が必要な課題を取り扱うことに対する期待があることを把握。
- ・ 推進委員会の過去の議事録でも、「文系と理系を融合した新たな学際的な分野をつくり、その研究コミュニティの育成したい」との発言があり、ターゲットのニーズとの共通点が見いだせた。
- ・ キャッチコピーの開発による理解促進や、正式事業名とは別に愛称を導入することによる認知度向上を図った事例を参考とした。

● ヒアリング調査

<対象機関>

政策のための科学推進事業の各プログラム実施機関における広報活動の従事者。

- ・ 全体／SciREX政策形成実践プログラム：文部科学省（11月6日）
- ・ 全体：JST研究開発戦略センター(CRDS)（7月26日）
- ・ 公募型研究開発プログラム：
 - ・ JST社会技術研究開発センター(RISTEX)（7月26日）
- ・ 政策課題対応型調査研究／データ・情報基盤整備：
 - ・ 科学技術・学術政策研究所（NISTEP） SciSIP室（10月15日）
- ・ 基礎的研究・人材育成拠点：
 - ・ 政策研究大学院大学(GRIPS)（9月24日）、東京大学（9月26日）、
 - ・ 一橋大学（9月26日）、大阪大学（9月25日）

<結果概要>

- ・ 広報の目的・ターゲット

事業全体の広報と各プログラムの広報に対する考え方、共通のゴールがみえない。広報の目的意識の共有化がなされていないため、ターゲットの整理ができていない。
- ・ 広報活動の現状

事業全体の広報活動はウェブサイトがメイン。更新は不定期。各プログラムの広報活動はそれぞれターゲットがかなり限定され、そこに最低限アクセスできる媒体が選択されている。
- ・ 各プログラムの今後の広報活動

各プログラムについては、新たな分野や対象を想定し、従来のターゲットよりも広い範囲に広報を行い、当該プログラムに関わる人を増やしたいとする意向がうかがえる。
- ・ 政策のための科学推進事業全体の今後の広報活動

事業全体の広報のあり方に関して拠点大学から要望が出ているが、その他のプログラムからはとくに指摘はなかった。

事業全体の広報と各プログラムの広報は、実際にはそれぞれ独立的に運用されているが、両者の担当者の意識にかい離が想定される。
- ・ 現場が認識している広報上の課題

事業全体として、各プログラムの中で相互の連携が見えにくく「バラバラな印象」という指摘。さらに、拠点大学の間でさえも情報共有の機会がない、とされた。

【広報課題の抽出】

- ・ 全体広報の実施主体

全体広報をマネジメントする主体、全体広報に責任を持って取り組む主体が明確でない。

- ・ 広報の目的と戦略
全体広報の目的=成果目標が意識化されていない。
- ・ ターゲット
全体広報のターゲットが定まらない。
- ・ メッセージ
ウェブサイトにある情報を読んでも、部外者には内容を理解できない。
- ・ 媒体
中心的な広報媒体となるウェブサイトに誘導する仕掛けがない。
- ・ コンテンツの構成
全体広報のウェブサイトと個別プログラムのサイトの情報が錯綜している。

【広報戦略の策定】

- ・ 全体広報の実施主体の明確化
- ・ 広報姿勢の転換（説明責任を果たす広報から理解を増やす広報へ）
- ・ 複雑な広報ターゲットの整理
- ・ 広報目的の方向の明確化（巻き込み型と情報拡散型の2方向）
- ・ コミュニケーションメッセージ（事業名、キャッチコピー、ロゴマーク、一言説明、キャラクター等）の開発
- ・ 各種広報手段（ニュースレター等）の企画

【広報アクションプランの提案】

- ・ 広報チームの体制とスタッフに求められるスキル
- ・ 広報チームの役割と運用（サイトをはじめ情報発信のための運用方法）
- ・ コミュニケーションツールについて
 - キャッチコピー、ロゴマークの改定
 - 事業を説明する基本テキストの見直し
 - キャラクター
 - ニュースレター
 - ・ ポータルサイトの活用以外の手段としてのニュースレター（電子版）デザインを作成し、実際に行ったインタビューの原稿を特集記事として作成した。
 - ・ その他広報施策として、メールマガジン、シンポジウム、講演会、個別プログラムの公開講座、市民大学に関する提案を行った。

②ポータルサイトの改善・充実

【広報課題抽出のための調査】

● ヒューリスティック調査

既存のポータルサイト (<http://scirex.mext.go.jp/>) について、以下の通り、ヒューリスティック調査を実施した。

<調査手法>

WEBユーザビリティ評価の調査員が、「サイト構造」「導線」「ユーザビリティ・アクセシビリティ」「ソースコード」の4つの観点でレビュー調査を実施。

<結果概要>

- ・ リンク切れやエラーページなどのセキュリティ的に不備な箇所について、サイト移行時に修正を行った。
- ・ サイト構造として、一般的なWebサイトを基準とした配置や操作感を実装していくべきだと考えられるため、根本から構成を見直し、拡張性を備えたサイト設計を行う必要がある。
- ・ また、ポータルサイトとして可能な限り更新頻度を高めるために、各拠点からの情報を吸い上げる仕組みとしてRSS機能の活用を検討、各拠点との情報共有のための広報会議開催などを提案した。

● 既存資料分析

<対象資料>

- ・ 科学技術イノベーション政策のための科学推進委員会資料
- ・ 基盤的研究・人材育成拠点整備事業及び政策実践プログラムに関する検討状況資料

<結果概要>

- ・ 事業の全体像において「政策のための科学」をはじめ、「科学技術イノベーション政策」などのキーワードがどのように説明されているのか、わかりやすい説明方法になっているのか、検証した。
- ・ 表現方法が不統一であり、説明方法も、初めてサイトを訪問した人の視点でみると、わかりにくいものとなっていた。

- ヒアリング調査

<対象資料>

- ・ SciREX関係機関連絡会合（平成26年1月、平成26年3月）の出席者。

<結果概要>

- ・ 連絡会合の出席者に広報戦略（案）を説明。関係者たちのサイトの活用方法などを整理したうえで、ポータルサイトの運営方法や改善の方向性についても説明した。
- ・ 各メンバーの意見をもとに、「提携の説明文やロゴの活用方法など統一すべきところは統一する」「個々の活動については更新情報を共有し、ポータルサイトで事業全体の広報活動が可能な状態とする」などを広報戦略に反映した。

【改善サイト（案）の構成】

- ・ 立案した広報戦略に基づき、平成26年度の公開に向けた新ポータルサイト案を構築した。拡張性、更新性を考慮したWebサイト構造設計を行うとともに、カテゴリーを整理した。
- ・ HOME画面では下層ページへのスムーズな誘導を行う構成とし、情報ポータルとして、関係機関サイトの情報を集約表示している。
- ・ イベントカレンダー、等のページを新設した。
- ・ 加えて平成24年度に実施された「キャリアパス形成等に関する平成24年度委託調査」からうかがえる民間企業の関心度、関心内容を踏まえ、ターゲット別の施策を提案する
- ・ 分かりやすい情報提供としてソーシャルトーク、インタビュー等を新ポータルサイトのコンテンツとして盛り込んだ。

【現状のポータルサイトの改善、更新、充実】

- ・ 現状のポータルサイトでの改善、更新、充実を行った。
- ・ 平成25年7月から平成26年3月までのサーバの運営を管理し、ポータルサイトの更新作業として文部科学省からの更新依頼に適宜対応した。前述のヒューリスティック調査の結果等に基づいて、セキュリティ対策や修正を行った。
- ・ ポータルサイトに実装する機能として、「アーカイブ機能」「オープンカフェ機能」「理解促進機能」等に分類し、「ポータルサイトの改善・充実」の新ポータルサイト構築時に機能として盛り込んだ。
- ・ その他、既存のコンテンツ、デザイン等を継承の上、ポータルサイトの運営を行うとともに、facebook、Twitterの技術的支援として、更新作業マニュアルの作成、SNSの特徴をまとめた資料作成を行った。

2. 推進事業に対する機関の関心を喚起する手法の調査

(1) 広報課題抽出のための調査

1) 既存資料の分析

広報課題抽出に向けての分析軸を抽出するために、既存資料分析企業など外部に行ったアンケートと訪問調査に関する報告書をもとに、ターゲットへのアプローチ方法について課題を把握した。

また、「科学技術イノベーション政策のための科学推進委員会」の議事録から推進委員（内部）の認識や見解、本事業の狙い、課題、期待を把握し、広報戦略に反映した。

さらに、弊社がこれまでに支援を行った省庁や自治体、政府機関などの広報改善プロジェクトから、本事業に資する取り組みを抽出し、参考とした。

<対象の既存資料>

- ・ 平成 24 年度科学技術総合研究委託事業「科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」で取り組むべき社会的課題、並びに拠点における人材育成プログラムに対する潜在的ニーズ及び育成される人材のキャリアパス形成に関する調査・分析」に関する報告書
- ・ 上記のアンケート調査を作成するために予備調査として行った訪問調査（民間企業、自治体、公設試験研究機関、大学を訪問）に関する報告書
- ・ 科学技術イノベーション政策のための科学推進委員会の過去の議事録
- ・ 現行のホームページや政策のための科学推進事業関連資料
 - ・ 『科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」の推進について（科学技術・学術審議会総会資料（第 36 回）2011 年 5 月）
 - ・ 平成 25 年行政事業レビューシート（文部科学省）
 - ・ 科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」基盤的研究・人材育成拠点整備事業 整備方針（2011 年 8 月）
 - ・ 基盤的研究・人材育成拠点整備事業整備方針（案）補足資料（2011 年 8 月）
 - ・ 科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」で取り組むべき社会的課題、並びに拠点における人材育成プログラムに対する潜在的ニーズ及び育成される人材のキャリアパス形成に関する調査分析（平成 24 年度）
 - ・ 『2014 年日本はこうなる』（三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング 2013 年）
- ・ 他省庁や行政機関が取り組んだ類似の広報改善プロジェクトの事例

<結果概要>

- ・ 企業などに行ったアンケートで、7 割が「技術に目利きができる力を身につける教育」に期待しているとの結果があり、「プロジェクトをマネジ

メントできる人材教育が重要で国からの支援策として不可欠である」との自由回答もあった。広報ターゲットの一つと位置付けている企業のニーズを把握した。

- ・ 一方、アンケート回収率は14.7%にとどまり、「科学技術イノベーション政策のための科学」という表現そのものがわかりにくく、産業界やアカデミアと共通理解を得るには丁寧な説明が必要との報告があった。今後ターゲットと想定している民間企業などに情報に注目してもらい、期待する行動へと誘導するためには、まず、事業について平易な言葉で伝える紹介文が必要。
- ・ 訪問調査で「技術開発にプラス面・マイナス面の両方が伴う課題、異なる習慣・文化を持った機関や業界が融合して取り組む必要がある課題などを取り扱ってはどうか」などの期待が寄せられている。本事業の情報発信をターゲット側の視点で表現することが有効であり、そのヒントを得た。
- ・ 科学技術イノベーション政策のための科学推進委員会の過去の議事録から、「文系と理系を融合した新たな学際的な分野をつくり、その研究コミュニティの育成」を目指すとの発言があり、ターゲットのニーズとの共通点が見いだせた。
- ・ 現行のポータルサイトのトップページに一般市民や民間企業などがアクセスした際に、「科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」とは何か、「SciREX」とは何かを一言で（一文で）わかりやすく説明できる言葉が必要である。
- ・ また、同じ言葉を伝える際にも、表現の不一致がある。
 - 「科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」(SciREX)、
 - 「科学技術イノベーション政策のための科学」
 - 「科学技術イノベーション政策の科学」)
- ・ 補足する一文も統一されていない。
 - 「客観的根拠（エビデンス）に基づく政策形成の実現」
 - 「客観的根拠に基づく合理的な政策決定のための科学」など
- ・ さらに、弊社が取り組んできた類似の広報改善プロジェクトから、内部の意識共有を図るキャンペーン事例にみる「情報共有の場」づくり、ロゴマークの活用による視覚的要素の統一、キャッチコピーの開発による理解促進や、正式事業名とは別に愛称を導入することによる認知度向上などを参考とした。

・政策のための科学推進事業のポータルサイトのトップページ

キーワード、事業を端的に示す説明、各事業の位置づけなど、初めてサイトを訪れる層に対してホスピタリティが欠けている。改善が必要。

『SciREX』が読めない

事業理解を助ける説明になっていない

初めて読む人に不親切な説明

事業の内容が理解できない。
一言で（一文で）わかりやすい説明が必要。

ENGLISH

「政策のための科学」とは? ● プログラム紹介 ● 推進委員会 ●

お知らせ ● イベント ● トピックス ●

「政策のための科学」を学ぶ ● 成果・資料 ● リンク集 ●

未来を変える科学の一步

科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」推進事業 (SciREX: Science for RE-designing Science, Technology and Innovation Policy) は、科学技術イノベーション政策において、客観的根拠 (エビデンス) に基づく合理的なプロセスによる政策形成の実現のため、政策形成プロセスの進化と、関連する学際的学問分野の開拓を目指した取り組みを推進します。

Mission-Oriented Research

政策課題対応型調査研究

政策二一を踏まえた調査分析の推進 (研究開発投資の経済的、社会的影響の調査分析)

Research Funding

公募型研究開発プログラム

中長期に政策形成に寄与する手法・指標等に関する多様な研究開発プロジェクトの推進

Human Resource Development

基盤的研究・人材育成拠点

国際的水準の基盤的研究・人材育成拠点の構築と、幅広い人材の育成の推進

Data Infrastructure

データ・情報基盤

政策形成及び調査・分析・研究のためのデータの体系的・継続的蓄積と、情報基盤の構築

・各関係機関のサイトとの連動性

サイト間の連動性が図られていない。キーワード、事業を端的に示す説明や一部機関のサイトトップページのデザインや文言の不統一がある。

(参考) GRIPS 科学技術イノベーション政策プログラム <http://scirex.grips.ac.jp/>



(参考) 科学技術・学術政策研究所 <http://www.nistep.go.jp/>



(参考) 社会技術研究開発センター <http://www.ristex.jp/stipolicy/index.html>

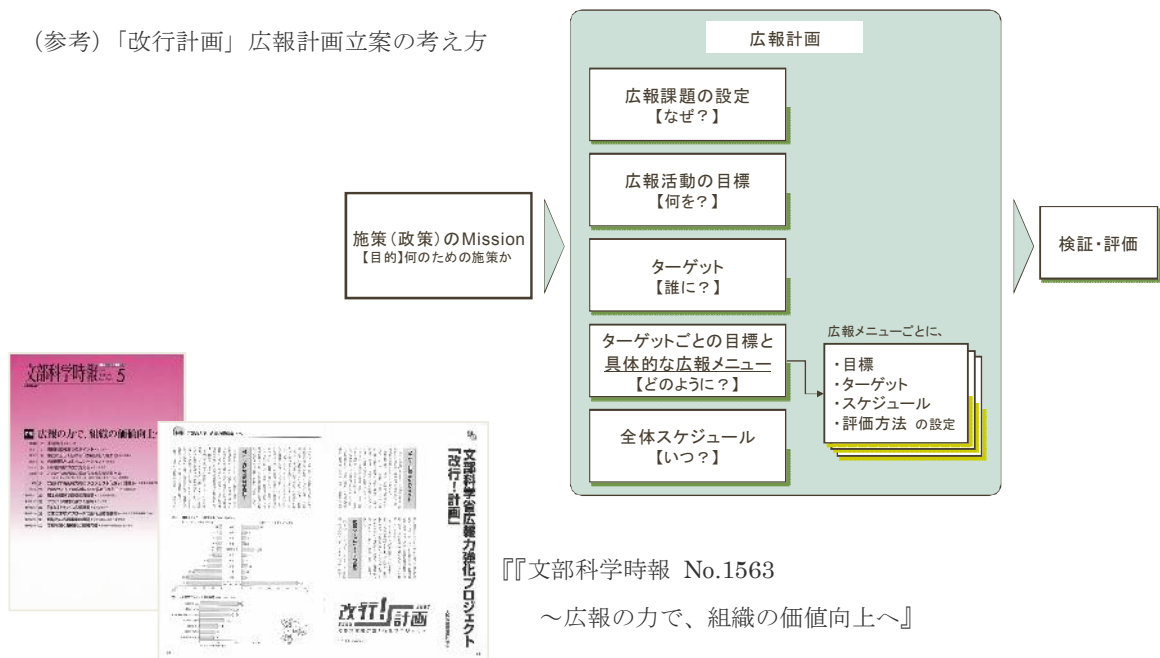


<参考事例② 類似事例より>

●広報力強化プロジェクト「改行！計画」（文部科学省 2005 年～2007 年）

- ・文部科学省が、2008 年に新庁舎に移転するにあたり、組織・職員の広報力（コミュニケーション力）を強化していくプロジェクトを展開。「改行」には、建物だけでなく中身（行政のあり方）も「改める」という意味が込められている。『良い政策を立案し、実行するためには、現場関係者や各界との双方向のコミュニケーションが必要』と考え、コミュニケーション強化のためのタスクフォースを組成。省の各部の企画官級、自主的に参加した若手メンバーが省の広報力強化に向けた検討を行う『場』をつくった。

（参考）「改行計画」広報計画立案の考え方



<本事業への反映ポイント>

- ・本事業の各プログラムで実施主体となっている関係機関の担当者たちが、内部の意識共有を行い、広報目的やターゲットなどを共有することは極めて重要。「広報力強化」に取り組んだ内部キャンペーンを参考に、同じ意識で広報活動に取り組むため、広報の連絡会を定期開催することとした。情報共有を行う場を設け、それぞれの役割を明確化する。

●ロゴマークの改定（独立行政法人国際協力機構 2003 年～2008 年）

- ・独立行政法人化を前に、ロゴマークの改定を実施。以前は「ジャイカと読めない」「JKA」に見える、他団体と並んで表示されたときに印象が薄いなどの課題があったため、カタカナ「ジャイカ」を添えたマークを開発し、運用の徹底を図った。



<本事業への反映ポイント>

- ・本事業でも、ロゴマークのデザインに課題がある。「読めない」「使用ルールが徹底されていない」などの課題を解決し、各プログラムが統一的に本事業のロゴを使用していくことが、まず、内部の意識を高め、外部への発信力の強化にもつながる。

●施策 PR キャラクター作成（さいたま市 2007 年～現在）

- ・合併後のさいたま市が、市への愛着を高めるため、キャラクターを開発。名前は「つなが竜ヌウ」。「ヌウ」は、フランス語で「素のまま」という意味で、包み隠さず、飾り立てず、情報を伝えるという姿勢を表現。さいたま市の魅力を伝え、人々の「つながり」を深める役割を名称で伝えている。竜は市の真ん中にある沼の伝説にちなんだもの。キャラクターに対する愛着が、本事業への愛着を育てていく。認知度を最速かつ広範囲に高め、接触する機会を増やすことにも効果がある



(さいたま市 HP: <http://www.city.saitama.jp/006/012/001/004/>)

<本事業への反映ポイント>

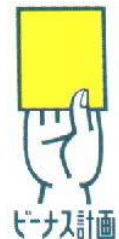
- ・施策が何を目指しているのか、キャラクターの名前やデザインでわかりやすく伝えることができるため、本事業でも開発を提案した。

●ごみ減量・リサイクル啓発プロジェクト「ビーナス計画」(浦安市 2007 年～現在)

- ・施策の正式名称は「ごみ減量・再資源化計画」だったが、「女神（ビーナス）」と「静脈の」の2つの意味を込めた「ビーナス計画」と名付けてキャンペーンを実施。

<本事業への反映ポイント>

- ・正式名称を使用するのではなく、読みやすく、口で伝えやすく、覚えやすい「愛称」を導入することにより、普及のスピードが速まる。本事業でもロゴマークの下に「サイレックス事業」を付記することにより、愛称として普及することを提案した。



2) ヒアリング調査

①調査目的

政策のための科学推進事業に関する広報活動の現状を把握し、今後の課題を明らかにする。

②調査対象

政策のための科学推進事業の各プログラム実施機関における広報活動の従事者。

③調査項目

上述の現状分析を踏まえつつ、主な調査項目を以下に設定する。

- ・ 広報の目的意識
- ・ 広報のターゲット
- ・ 広報活動の現状
- ・ 各プログラムの今後の広報活動
- ・ 政策のための科学推進事業全体の今後の広報活動
- ・ 広報上の課題 など

④調査日程

| ヒアリング対象プログラム | 所属 | 調査日 |
|-------------------------|-----------------|-------------|
| 事業全体／SciREX 政策形成実践プログラム | 文部科学省 | 2013年11月6日 |
| 事業全体 | CRDS | 2013年7月26日 |
| 公募型研究開発プログラム | RISTEX | 2013年7月26日 |
| 政策課題対応型調査研究／データ・情報基盤整備 | NISTEP SciSIP 室 | 2013年10月15日 |
| 基礎的研究・人材育成拠点 | GRIPS | 2013年9月24日 |
| | 東京大学 | 2013年9月26日 |
| | 一橋大学 | 2013年9月26日 |
| | 大阪大学 | 2013年9月25日 |

⑤ヒアリング調査結果

ア) 広報の目的・ターゲット

<ヒアリング結果ポイント>

事業全体の広報と各プログラムの広報に対する考え方、共通のゴールがみえない。広報の目的意識の共有化がなされていないため、ターゲットの整理ができていない。

(現状整理)

■ 事業本体の広報に関して：

何のために、どんな成果を期待して広報するのかという根本の目的意識がいまだ共有化されておらず、そのためターゲットも決まっていない。

■ 一方で、「事業全体と各プログラムに関する認知・理解を促進する」という立場から、個別のプログラムよりもターゲット意識に広がりを持つ側面がある。

■ 各プログラムの広報に関して：

実施機関・担当者における広報の目的意識は、それぞれの想定するターゲットにあらわれている。

➤ 公募型研究開発プログラムにおいては応募者、基盤的研究・人材育成拠点の大学においては受講生というように、各プログラムの広報は直接的・一義的なステークホルダーを想定して実施しており、それ以上のターゲットの広がりはない。

➤ 各プログラムにおいて誰に関わってほしいかは明確であり、広報ターゲットは自ずから決まるため、そこから具体的な広報の手段も見えてくることも想定される。

■ 「一般市民はほとんど意識されず、当該分野に関心・関連がある人を想定」しており、結果としてそのターゲットも、各プログラムのターゲットとの重なりが大きいと思われる。

■ こうした広報の結果、当該事業の情報は当事者や関係者の外側には流れにくく、社会的な認知が進まない状態になっている。

イ) 広報活動の現状

<ヒアリング結果ポイント>

事業全体の広報活動はウェブサイトがメイン。更新は不定期。

各プログラムの広報活動はそれぞれターゲットがかなり限定され、そこに最低限アクセスできる媒体が選択されている。

(現状整理)

■ 各プログラムの広報活動について：

拠点大学で学内学生を対象としている場合、通常のカリキュラムの告知と同じ方法によって学生の募集を行っている。(学生募集は、通常のシラバス集と大学のHPによる)

➤ 公募型研究開発プログラム：

RISTEXのウェブサイトに情報を掲載し、合わせて想定ターゲットに直接電子メールを発信している。

➤ 政策課題対応型調査研究／データ・情報基盤：

基本的には紙の研究成果の報告書によってデータが公表され、あわせてNISTEPのウェブサイトでも公開されている。

■ 事業全体の広報活動について；

ウェブサイトがメインとなり、いちおう当該事業に関する情報がここに集約される構造になっている。

➤ ツイッターとフェイスブックもあわせて運用されているが、更新が不定期で、新たな情報提供が途絶えると、インターネット上の更新も止まってしまう。

ウ) 各プログラムの今後の広報活動

<ヒアリング結果ポイント>

各プログラムについては、新たな分野や対象を想定し、従来のターゲットよりも広い範囲に広報を行い、当該プログラムに関わる人を増やしたいとする意向がうかがえる。

(現状整理～各プログラムの意向)

■ 公募型研究開発プログラム：

応募者として新たに医療や経済の分野の研究者を期待している。また、成果の活用者としては行政担当者の参画を想定している。

➤ 例えば、行政担当者が理解し、活用できる論文の提示や公募以外の研究者の巻き込み等

■ 政策課題対応型調査研究／データ・情報基盤：

現在、公表されている研究成果が対外的なレベルでどの程度活用されているのかを把握していないとしつつも、研究成果の利用がいつそう拡大することを期待しており、ここでもいわゆる研究者のほかに、新たなターゲットとして政策立案者という行政官の参画が想定されている。

➤ 例えば、NISTEPのサイトを積極活用、そこに掲載されている研究成果をどんどん活用してもらおう。既存の研究成果（データ）をほかの人が加工したり、さらに分析したりして、当研究所ができないことをやってもらいたい。

■ 拠点大学：

学生の応募を確保することを広報の第一義ととらえており、その意味では現状においてその目的は達せられている。しかし、その一方で社会的な認知を広めることの重要性も一部で認識されている。特に、卒業生の受け皿として産業界において当該事業の認知・理解を求める意見もあった。

➤ 各拠点大学を束ねる立場にある場合は、マスメディアに対してもっと情報提供しよと思う。媒体はホームページ、メール等を想定。

エ) 政策のための科学推進事業全体の今後の広報活動

<ヒアリング結果ポイント>

事業全体の広報のあり方に関して拠点大学から要望が出ているが、その他のプログラムからはとくに指摘はなかった。

事業全体の広報と各プログラムの広報は、実際にはそれぞれ独立的に運用されているが、両者の担当者の意識にかい離が想定される。

(現状整理)

- 事業全体の周知が足りないという認識は、関係者一同に共通していると思われる。
 - 特に、やがては政策決定に大きく寄与することを目指す事業である以上、今の段階から「社会に開かれた姿勢を示すことが非常に大切」という指摘もあった。
- 関係者以外の社会的な認知を広めるに際しては、マスコミの上手な活用などが示唆されている。
 - 例えばマスコミの科学技術系の記者への情報提供。彼らに「エビデンス」の適切な扱い方を学んでもらって、科学技術の正確な情報を、またエビデンスの重要性を市民に伝えてもらいたい。
 - 市民向けの広報では、著名人を使って、科学技術政策におけるエビデンスの重要性について、さりげなく注意喚起してもらってはどうか。
- 事業全体の広報において主たる媒体となっているウェブサイトについて：
当該事業で扱う情報の専門性がかなり高いために、社会的な認知・理解を得るためには、内部の情報をそのまま羅列するのではなく、「編集する機能」が必要だという指摘も見られた。
 - 各事業の現場から出てきた情報をそのままホームページに掲載しても、外部に対してはアピールできない。一般向けに情報を加工する必要性。
- 広報する内容に関連して：
各プログラム間で情報共有が進まず、他のプログラムの事業がどのように進捗しているのかが見えないという指摘が拠点大学からある。
 - 事業全体のウェブサイトに対して内部的な情報共有の機能も期待されている。

オ) 現場が認識している広報上の課題

<ヒアリング結果ポイント>

事業全体として、各プログラムの中で相互の連携が見えにくく「バラバラな印象」という指摘。さらに、拠点大学の間でさえも情報共有の機会がない、とされた。

(現状整理)

- 内部的には、各プログラム間での協働意識が希薄な様子。
- 対外的には、「用語・名称がどれも長く、略称が多い」という用語の問題が指摘されている。
 - 先に「社会に開かれた姿勢」を示すことの重要性が指摘されたが、外部に理解されにくい用語は一種の「隠語」であり、内向き姿勢を象徴するものとなりやすい。
 - ☆ SciSIPは発足前の準備室の仮称として使っていた。その後、SciREXの傘下に入ったが、SciREXとの関係がわかりにくい。SciREXの事業であることを示す共通のマークを作り、それをSciSIPなどの傘下機関に冠すると、関係がわかりやすくなる。
 - ☆ 用語・名称がどれも長く、略称が多い。この点でも部外者には理解されにくい。
- 「バラバラな印象」につながる要素について：
 - 基本用語とその伝え方：そもそも「科学技術イノベーション」という基本用語が、一般社会での理解を阻害し、また、本来参画を期待される文化系学生を遠ざけるという指摘もあった。
 - 組織の伝え方：名称が長く類似した機関が関与しており、事業の組織的な体制が見えにくい。組織のわかりやすさを出すために、事業全体に共通したマーク（統一的なビジュアル）を期待する意見もあった。
 - ☆ 用語・名称がどれも長く、略称が多い。この点でも部外者には理解されにくい。
 - ☆ この事業に参加している大学のことは、単に「拠点」と呼んでいる。正式名称は当事者でも使わない。

3) 広報課題

既存資料の分析、ヒアリング調査結果を踏まえて、政策のための科学推進事業に関する広報における課題を整理する。

①全体広報の実施主体

- 全体広報をマネジメントする主体、全体広報に責任を持って取り組む主体が明確でない。

各プログラムの広報は、それぞれの実施機関が別々に取り組んでおり、プログラムの運用に支障がない程度の効果は上がっているものの、なお、プログラムごとの事業内容は外部からは分かりにくい。

一方、それらの各プログラムを総合した全体、すなわち「政策のための科学推進事業全体」の広報（全体広報）においては、訴求すべき情報が整理されていない。その広報を実施する主体も明確ではない。

政策のための科学推進事業に関する広報を「全体として最適化する」ためには、広報の司令塔機能が不可欠である。また、今後外部から、多くの研究者や行政・企業人の参画を促すためには、事業主体＝メッセージ発信元の姿勢を明示することが非常に重要になる。

したがって、当該課題を解決するためには、以下の方策が必要にある。

課題解決の方向

- 全体広報に関する権限・責任の所在を定める。
- 全体広報を形にできるスタッフ体制を整える。

すぐにでも実効ある広報戦略とするためには、全体広報に関する「権限・責任」の所在を明示するだけでなく、それを動かす仕組みとしてのスタッフ体制の記述も当該計画中に欠かせない。

②広報の目的と戦略

- 全体広報の目的＝成果目標が意識化されていない。

各プログラムの広報には目的意識があるが、全体広報では、どのような成果を求めて広報を行うのかが共有されていない。

目的意識が希薄なため、戦略的な広報ができていない。

課題解決の方向

- 全体広報によって獲得すべき成果（ゴール）を定める。
- ゴールにたどり着くためにたどるべき道筋（プロセス）を定める。

広報によって獲得すべき成果が、広報の目的となる。

そのゴールにたどりつくための論理的かつ効率的な筋道が、広報戦略となる。

③ターゲット

- | |
|---------------------|
| ■ 全体広報のターゲットが定まらない。 |
|---------------------|

広報の目的意識が希薄であるため、ターゲットも見えてこない。

課題解決の方向

- 広報目的にたどり着くための道筋ごとに、ターゲットを定める。
- 一度に目的を達成できない場合は、広報効果の波及的な達成モデルを組み立てる。

広報の目的にあわせて、ターゲットを定める。

目的達成のために意識態度変容を起こす必要がある層（本来のターゲット）にアクセスしにくい場合は、その層に広報の影響・効果を伝播させるための媒介的ターゲットを設定する。

④メッセージ

- ウェブサイトにある情報を読んでも、部外者には内容を理解できない。

当該事業の情報が記載されているウェブサイト上には、ある程度の予備知識がないとほとんど理解できないような専門用語が多い。たとえば、**SciREX** という基本用語は部外者には読めないし、意味が分からない。ウェブサイト内の官庁的な文章もとっつきにくい。

結果として、関係者のために作られたウェブサイトであるかのような印象を与えてしまい、部外者に対してフレンドリーでない。

課題解決の方向

- 外部の社会に流通しやすい言葉を開発する。
- 部外者にこそ理解される書き方をする。

「伝わる広報」となるためには、伝わりやすい言葉を伝わりやすい文体で伝えること。特に、部外者の視線に立って、用語・文体を検討する必要がある。

⑤媒体

- 中心的な広報媒体となるウェブサイト誘導する仕掛けがない。

今後、最も戦略的に活用できる媒体はウェブサイトであるが、今のところ、掲載されている情報は専門的なものばかりで、情報更新の頻度も低い。

また、他の媒体からウェブサイトにとどろつく仕組み・仕掛けが機能していない。

その結果、ウェブサイトの存在は、ほぼ関係者間で認識されるだけの状態にとどまり、ウェブサイトへの訪問者が部外者へと広がらない。

課題解決の方向

- 多様な広報媒体の受け皿となるウェブサイトと、そこへの訪問者を誘導する媒体を広報戦略の中に位置づけ、相互に連携させる。
- 事業の理解促進のための「幹としての媒体」と、情報拡散のための「枝としての媒体」を整理し、役割に応じて活用する。

媒体によって、情報を広く拡散させるのに適した媒体と、深く理解を促すのに適した媒体があり、多様な媒体を活用しつつも、各媒体の特長を最大限に生かすために、各媒体の特性に合った活用を行う。

その際、広く拡散させる媒体は、最終的には深く理解を促す媒体であるウェブサイトへ収斂し、そこへ部外者を誘導する。

⑥コンテンツの構成

- 全体広報のウェブサイトと個別プログラムのサイトの情報が錯綜している。

全体広報のサイトと個別プログラムのサイトで、同一内容の情報を異なる言葉・言い方で表現している。(例えば、「政策のための科学推進事業とは何か」についての説明。)

全体広報サイトから個別プログラムのサイトへのリンクが、プログラム実施機関のトップページへつながっているため、個別プログラムの情報が探しにくい。この誘導の仕方では、事業の主体も分かりにくい。

全体広報と各個別プログラムのサイトで、「トーン&マナー」がそろっていない。

課題解決の方向

- 全体と個別を合わせたウェブサイトの「交通整理」を行い、内部における不一致・食い違いを解消する。
- 情報があるべき場所にあり、リンクを訪問者目線で張り直し、情報を探しやすいサイトを組み立てる。

政策のための科学推進事業の本体と各プログラムのサイトを、ひとつの「全体」として最適化する。

(2) 調査結果

1) 広報戦略の策定

先述した広報課題を解決するための方策を以下に示す。これが、本件の広報戦略の骨子となる。

①全体広報の実施主体の明確化

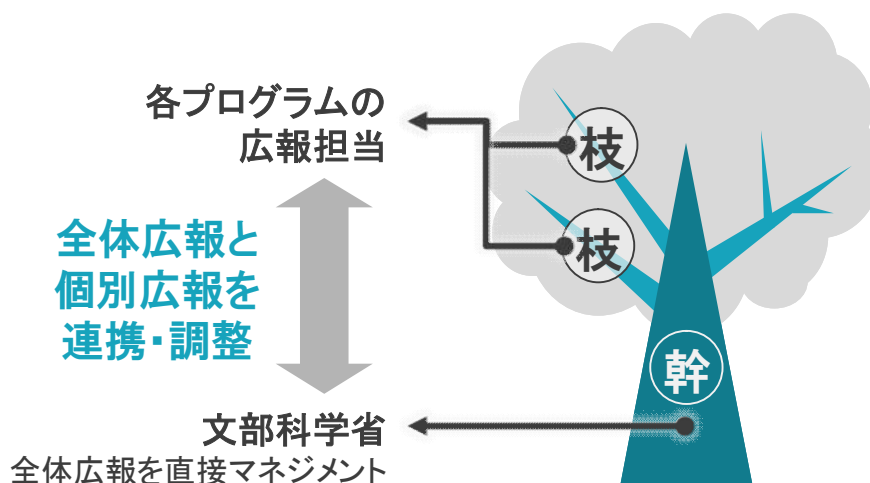
- 文部科学省が司令塔となり、そのもとに各プログラムの担当者も参加して広報チームを結成する。
- 広報チームは、全体広報と各プログラムの広報をあわせて、事業の広報全体を最適化する。

文部科学省は、全体広報（幹）の司令塔であり、同時に、個別プログラムの広報（枝）も含めた総体としての広報の「全体最適化」を図る司令塔となる。

具体的には、以下のような機能を担う。

- 全体広報という視点から広報をコントロールする。
- 各プログラムに広報担当を設置し、積極的な情報共有を促進する。
- 「編集者」として共有した情報を整理する。
- ターゲットにあわせた効果的な情報発信を行う など。

【広報全体の最適化の概念図】



②広報姿勢の転換

- 従来の説明責任を果たすための広報から、参画者・理解者を増やす広報へと転換する。

これまでの広報は、主として、当該事業を知りたい人に情報提供する広報であった。こうした広報は、「受け身」の広報であり、広報としての責任を果たしていることになるが、「知りたい人」が増えない限り、当該事業に関する情報は拡散せず、理解も広がらない。

今後当該事業に必要なのは、参画者と理解者であり、それが広報においては情報を「知らせたい人」になる。今後は、彼らを「つくる」ような広報を展開する。

【「受け身」の広報から「攻め」の広報へ】



受け身

「知りたい人」に知らせる

||

説明責任を果たす広報



攻め

「知らせたい人」に知らせる

||

参画者・理解者を増やす広報

③ “タマネギ構造” のターゲット

ターゲットは、当該事業との関わり方の濃淡により、以下のように同心円状に構造化できる。

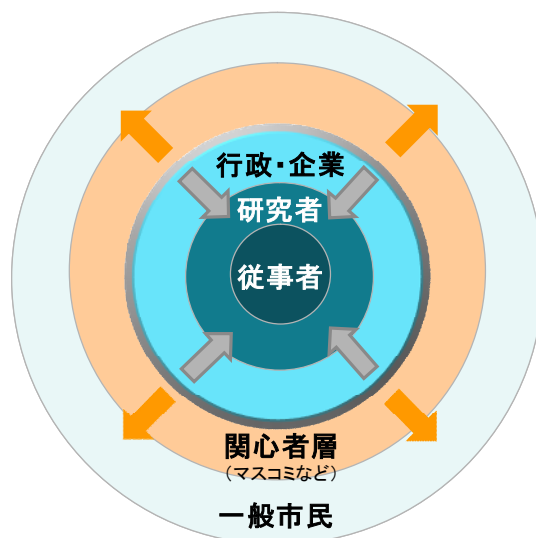
- 中心が当該事業の現在の従事者。即ち、文科省と各プログラムの実施関係者。
- その外側に、科学系・政策系など関連分野の研究者。
- その外側に、政策科学の成果の実践者（政治家、行政担当者、企業）。
- その外側に、関心を持ってくれる市民層。マスコミはここに位置する。

今後、当該事業に関わることが期待される人は、科学系・政策系などの関連分野の研究者（現在のメルマガ読者、各セミナー参加者など）、「政策のための科学」の成果を実践する政治家、行政担当者、企業人が想定できる。

研究者には、議論・研究に参加してもらい、情報発信もしてもらおう。実践者には、それぞれの持ち場で、「政策のための科学」を生かしてもらおう。（ここでのベクトルは内へ向く。）

一方、その外側に市民層が位置する。そこに「政策のための科学」に関心を持つ層を形成し、そこから事業の認知を市民層内に拡大させる。（ここでのベクトルは外へ向く。）

【タマネギ構造のターゲット】



④広報の目的

ターゲットの構造にあわせて、2つの方向性を設定する。

- 研究者、行政・企業に対しては「巻き込み」。
- 市民層に対しては「拡散」。

現在の「政策のための科学推進事業」従事者に近いポジションにいる近縁分野の研究者と、事業の成果を実社会に生かす実践者に対しては、当該事業へどんどん参画してもらうこと（巻き込み）を広報目的とする。具体的には、以下のような展開を想定する。

関連分野の研究者、行政・企業の人たちの間で

- 政策の科学に関するより多くの情報・知識を共有すること。
- それに基づき、知恵を出す人、行動する人を増やすこと。
- さらに、そこで得られた知見を実社会で生かす人を増やすこと。

一方、市民層に対しては、事業への認知・理解を広めること（拡散）を広報の目的とする。具体的には、以下のような展開を想定する。

市民社会において、マスコミやスポークスマン（事業をわかりやすく語る人）を通じて

- 「政策のための科学推進事業」という取り組みがあることを知ってもらうこと。
- エビデンスに基づく政策形成の考え方を知ってもらうこと。

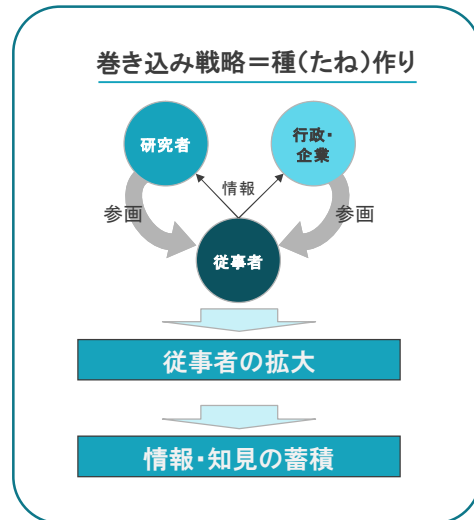
⑤ターゲット別の広報戦略

- 「巻き込み」戦略では、周辺の研究者や行政・企業人の参画を促し、当該事業のさらなる充実を図る。
- 「拡散」戦略では、「政策のための科学」への認知・理解を広め、期待感を高める。

「巻き込み」戦略では、当該事業への参画者を増やすことを目指す。

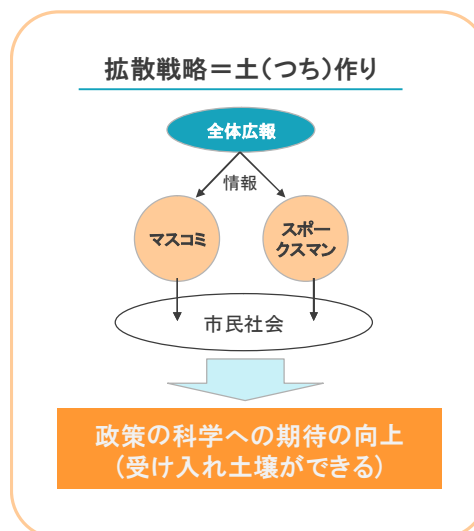
それによって、当該事業への従事者を拡大し、情報・知見の蓄積を促進させ、実社会への実践投入に備える。

これは、「政策のための科学」という政策決定プロセスを市民社会に投入する際の「種」づくりとも言える。



一方、「拡散」戦略では、マスコミやスポークスマンを通して市民社会への情報提供を効率化し、市民社会における「政策のための科学」に対する期待感を醸成することを目指す。

これは、市民社会において「政策のための科学」が受容され、本来の機能を発揮するための「土づくり」と言える。



⑥メッセージ開発

それぞれの広報戦略にあわせて、伝わりやすいメッセージを開発する。

- 「巻き込み」戦略では、参画への動機付けや志気の向上につながるもの。
- 「拡散」戦略では、「政策のための科学」への共感・納得を醸成するもの。
- 同時に、広報インフラとしての「定番情報」の整備・整理が不可欠。

研究者、行政・企業人に向けたメッセージは、たとえば、参画者が共有できる目標、参画へのモチベーションを高める言葉、などが想定できる。

市民社会に向けたメッセージは、たとえば、「政策のための科学」で何がかわるのか、それが目指す社会のあり方などを伝えるもの、などがふさわしい。

一方、そうしたメッセージ性の高い情報を支えるインフラ部分において、基礎的な情報伝達力を高める作業を行う。早急に手を加えるべき箇所は、以下の諸点である。

- 関係者にしか通じない略語でなく、部外者に開かれた用語。
- 長すぎる正式事業名のかわりに覚えてもらうための別名（愛称）。
- 全体広報と個別プロジェクトが共有するロゴマーク（使い方を決めて徹底）。
- マスコミやスポークスマンがそのまま使える事業の説明文（誰にでも理解できるため、それ以上言い換える必要がない対外的な説明テキスト）。
- 「政策のための科学推進事業」でやっていることのわかりやすい一覧。

⑦媒体の活用方法

- 「政策のための科学」に関する広報の中心（幹）は「全体広報のホームページ」。
- その他のさまざまな広報媒体は、それぞれの機能を果たしつつ、「全体広報のホームページ」へと部外者を誘導する。

全体広報のホームページは、以下の2つの目的を持つ。

- 「政策のための科学」に関する理解、納得を与える。
- 政策の科学関連情報を蓄積し、それを活用する。

全体広報のホームページには、従事者、周辺の研究者、行政・企業人（関係機関）向けには「アーカイブ機能」と「オープンカフェ機能」が、市民社会向けには「理解促進機能」が想定され、それぞれ以下の機能を有する。

【アーカイブ機能】

- 「政策のための科学」に関して、国内最大の情報蓄積があり、最先端の情報があること。いわば、「政策のための科学」に関する国内最大の電子図書館機能。

【オープンカフェ機能】

- 「政策のための科学」に関して、情報交換・共有できること。
- 「政策のための科学」に関して、議論の場を提供すること。
- 「政策のための科学」に関して、議論できる話題を提供すること。

【理解促進機能】

- 「政策のための科学」とは何か、について、一般市民にも分かるように、きちんと整理されていること。
- 「政策のための科学」がどこまで進んでいるのかについて、最新の情報が提供されていること。

また、全体広報ホームページに付随して、主としてマスコミ向けに「ニュースレター」を配信する。

これは、全体広報の一環として文部科学省が制作し、マスコミに対する関係づくりを担う。記者における当該事業の認知を広め、記者を全体広報のホームページへと誘導するとともに、シンポジウムなどのさまざまな広報を案内する。

一方、個別のプログラムの広報では、各実施機関が以下の媒体によって情報提供を行い、かつ全体広報のホームページへと部外者を誘導する。

【メールマガジン、SNS】

- 「政策のための科学」に関する認知や気づきを与える媒体。
- 最新情報を広く拡散させる機能をも果たす。

【シンポジウム、講演会】

- 部外者を意識して、社会性や話題性の高いテーマを設定する。
- 実施前は、話題化のプロモーション、実施後はその内容を「コンテンツ化」し、「資産化」する。

【個別プログラムの公開講座】

- 最新成果の発表。
- 成果を活用してもらうための「セールストーク」と質疑応答による関係づくり。

【市民大学】

- 「政策のための科学」入門講座。
- 行政・企業人のお試し講座にもなる。

⑧ウェブサイトの考え方

- 全体広報のHPと各プログラムHPをあわせて、「政策のための科学」ウェブサイトを再構築する。
- 各プログラムから情報が供給されることにより、常時「新鮮なウェブサイト」を目指す。

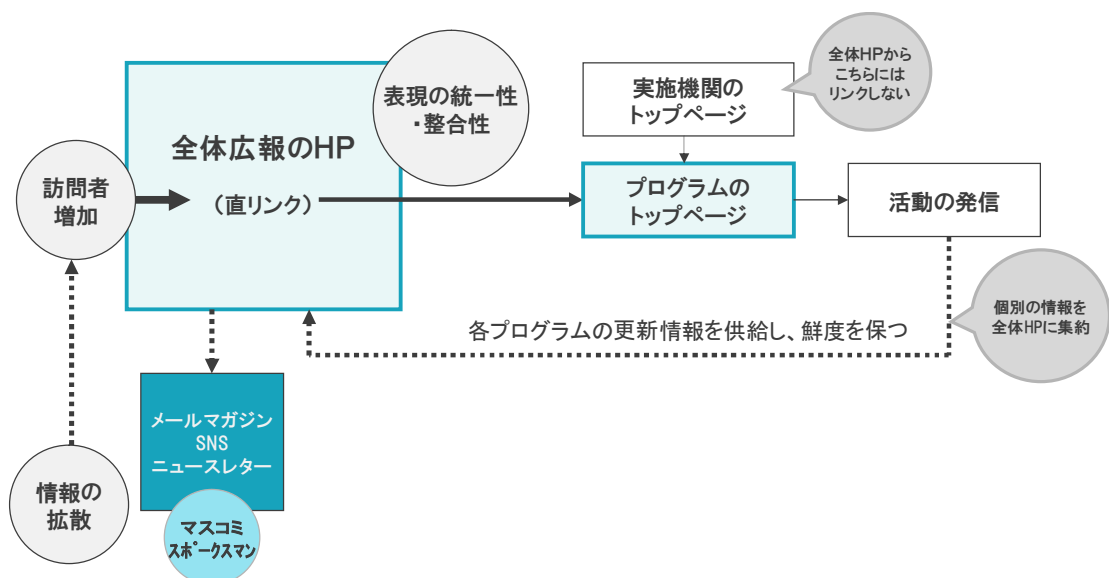
全体広報と個別プログラムの広報では、相互にリンクを張りつつも、基本的にそれぞれの実施機関が独立したホームページを運用しているが、これを相互の情報を整理することで、見かけ上、一体的なウェブサイトに再構築する。

その上で、個別プログラムで発生する新鮮な情報を全体広報で共有化し、ウェブサイト全体として情報更新が頻繁なサイトを目指す。

相互の情報の整理の仕方は、以下の通り。

- 全体HPとプログラムHPは、説明文やデザインなど表現の統一性、整合性を保つこと。
- プログラムごとに発信している活動の情報は、常に全体HPに集約すること。
- 全体広報ならではの情報拡散力を強化して、当該HPへの訪問者を増やすこと。
- 全体HPとプログラムのトップページは直リンクでつながること。

【全体広報HPと個別プログラムHPの関係】



2) 広報アクションプラン

具体的な広報活動の改善方策を提示すべく、前述で実施した既存資料や各主体へのインタビュー等を通して検討した広報戦略を基に、具体的に戦略を形にするためのアクションプランを以下に記す。まず整える必要があるアクションプランを実施する体制について、さらに、戦略で提示したターゲットと効果的に関係性を構築するためのメッセージと伝え方について、ポイントともに整理する。

① 広報チームの体制とスタッフに求められるスキル

広報チームは、文部科学省が中心となり、運営事務局を CRDS が担い、各プログラムの実施機関が参加することを想定。それぞれの役割は以下の通り。

【文部科学省】

- 広報チームのオーガナイザー
- 運営主体となる CRDS に対して助言、支援を行う。
-

【運営主体（CRDS）】

- 広報チームの運営主体
- 広報会議の招集、広報活動の進行管理、広報活動における意思決定等
- 「政策のための科学」分野の最新情報を発信するために、各プログラム実施機関から最新情報を吸い上げ、国内外の関連情報を収集し、それらを編集、広報素材として集約する。
- 全体広報ウェブサイトの運用管理。（更新は随時）
- ツイッター、フェイスブックの運用※
- ニュースレターの制作管理。（年4回発行）※

【参加メンバー】

- RISTEX、NISTEP、GRIPS、東京大学、一橋大学、大阪大学・京都大学、九州大学等
- それぞれの機関に広報担当者を設置する。
- 広報素材の収集、最新情報の更新、イベント等のレポート。

※スタッフに求められるスキルとして、以下の点が求められる。

- 出版物・WEB等の編集スキルを持つ。
- 取材経験がある（記事、見出しを作成することができる／撮影ができる）

②広報チームの役割と運用（サイトをはじめ情報発信のための運用方法）

広報チームは、毎月定例会議を開き、実施機関間の連携・情報共有を密にする。

その上で、それぞれが広報上の役割を果たしながら、今後の事業全体の広報活動の枠組みを検討していく。具体的には、順次以下の諸点を決定する。

●広報目標

2015 年末までの短期と 2020 年末までの中期に達成すべき目標を定める。

【短期目標】

- 実施機関間での広報上の連携の推進、市民レベルでの認知度向上などに関連する目標設定が必要。

【中期目標】

- 研究者と行政・企業人の巻き込み戦略の目標設定。

●ターゲット

現状でのターゲティングの妥当性を検証しつつ、より具体的なターゲットを定める。

【研究者】

- 現在、科学系では科学系研究所などの予算配分を行うマネジメント層、政策系では科学分野の政策に特に関心の高い研究者を想定している。

【行政担当者】

- 行政担当者は、「政策のための科学」の実践者として、国・地方でどのレベルの官僚が妥当か、どういう定義をすれば効果的なターゲットを捕捉できるか、を検討する。

【企業】

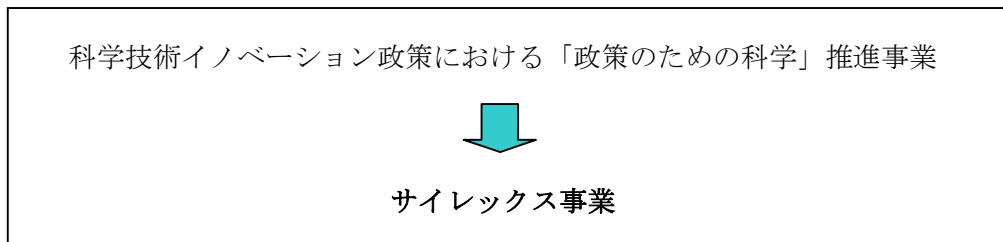
- ひとつには、大学の基礎研究と連携できる研究所を持つ企業、もうひとつは、拠点大学卒業生の受け皿となる企業を想定している。

③コミュニケーションツールについて

a) キャッチコピー、ロゴマークの改定

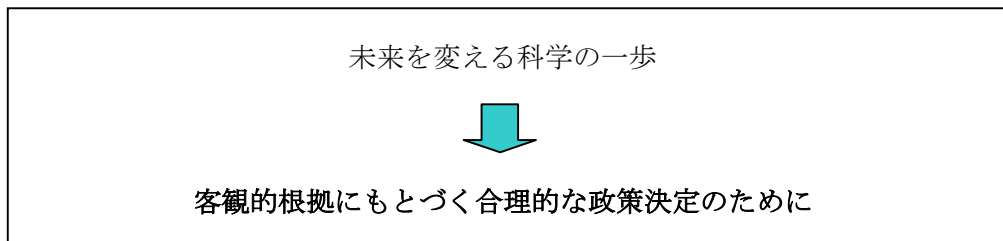
メッセージの伝達力を高めるために、広報の基本的要素（部品）を改善する。

● 広報上の事業名称



- ・ 読みやすく覚えやすい言葉「サイレックス事業」を固有名詞的に使う。
- ・ 短い単語にすることで、認知しやすくする。

● キャッチコピー



- ・ 「サイレックス」とは何かを補足するテキストとして機能する。
- ・ これによって、事業の意義・目的を示す。

●ロゴマーク

ロゴマークは、事業の象徴であり、言葉で伝えきれないイメージ形成に寄与する。デザインパワーとコピーパワーを最大限に活用して、メッセージ性の高いシンボルマークの表現が必要となる。

【基本形】何と読むか、すぐにわかるようにする。サイレックスのみではなく、「事業」を付記し、会社や商品の名前ではないことを示す



【背景色が濃い場合】白抜きにする。



※注意: ロゴマークの周囲には、一定の余白（「背景色が濃い場合」の青色部分）の面積を確保し、他の記号や文字などを近づけてはならない。



【一言説明】

サイレックス事業とは何かを一言、横に加えるとともに、キーワード「政策のための科学」のみとし、正式名称は、詳細説明の冒頭で触れることとする。



【一文説明】

上下にスペースを確保できない場合は、サイレックス事業と一言説明を合体して一文で表記する。



※英語：



※モノクロ版：



b) 事業を説明する基本テキストの見直し

●事業概要

科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」推進事業（SciREX：Science for RE-designing Science, Technology and Innovation Policy）は、科学技術イノベーション政策において、客観的根拠（エビデンス）に基づく合理的なプロセスによる政策形成の実現のため、政策形成プロセスの進化と、関連する学際的学問分野の開拓を目指した取り組みを推進します。



サイレックス事業とは

科学技術イノベーションの分野において、客観的根拠に基づく政策形成をめざす「政策のための科学」を推進する事業です。

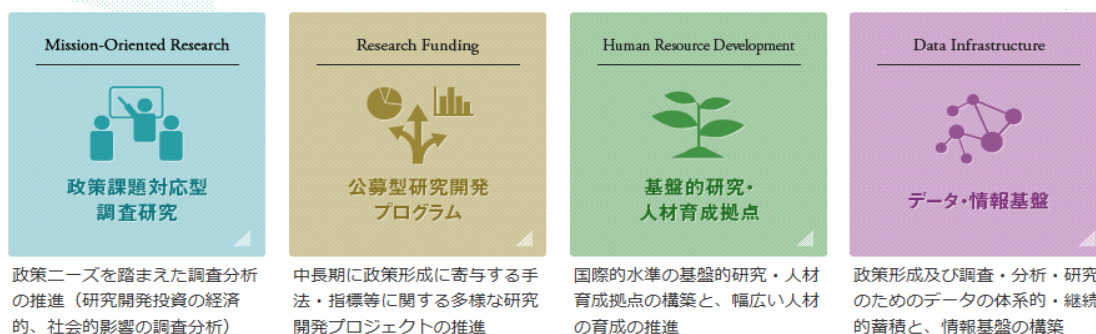
そのために必要な指標やツールの開発、環境整備、人材育成を行っています。

*サイレックス=SciREX Science for RE-designing Policy

（科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」推進事業）

- 「サイレックス事業とは～である」という最も単純な、分かりやすい文体を使用する。
- 正式名称の説明（*印以下）は補足的に添える。場合によっては省略可。

●各プログラムを説明する基本テキスト



■調査分析（政策課題対応型調査研究）
研究開発投資に対する社会的影響について、調査・分析を行います。

■研究開発（公募型研究開発プログラム）
政策づくりのための研究を、産官学を問わず広く公募・支援し、課題解決の手法や知見を蓄積します。

■人材育成（基盤的研究・人材育成拠点）
自然科学、社会科学、人文科学の知見を総合し、基盤的研究を進めるとともに、人材を育成します。

■データ整備（データ・情報基盤）
政策課題解決に資するデータ・情報を世界中から集め、広く公開し、エビデンス構築の環境を整備します。

c) キャラクター

今後、多くの人を巻き込み、知恵を出し合って事業を推進していくためには、「面白がってもらおう」「関心を持ってもらう」きっかけが必要となる。こうしたキャラクターを活用して、事業への愛着を高めていく必要がある。

これらのキャラクターは、前述のキャッチコピーやロゴマークとともに、ポータルサイトや、担当者の名刺等、さまざまなコミュニケーションツールへの展開が可能となる。

【考え方】

T-rex(ティーレックス)と略されるティラノサウルス・レックス。

「REX」(レックス)は、国内外を通じて、恐竜を意味する言葉として親しまれています。

研究者たちの冒険心や探究心などを表現するとともに、

科学技術イノベーション政策において、「RE=再構築」をキーワードに、
これまでの慣習を飲み込む勢いで、政策決定のプロセスを見直していく、という
その強い決意を「恐竜」のイラストで伝えていきます。

今後、多くの人を巻き込み、知恵を出し合って事業を推進していくためには、
「面白がってもらおう」「関心を持ってもらう」きっかけが必要であり、
こうしたキャラクターを活用して、事業への愛着を高めていくことをご提案します。

【キャラクター】

科学技術分野が持つドキドキ、ワクワクの冒険心、
探究心を持った恐竜が未知なる世界を駆け巡る。

(日本語)



(英語)



※モノクロ版
(日本語)

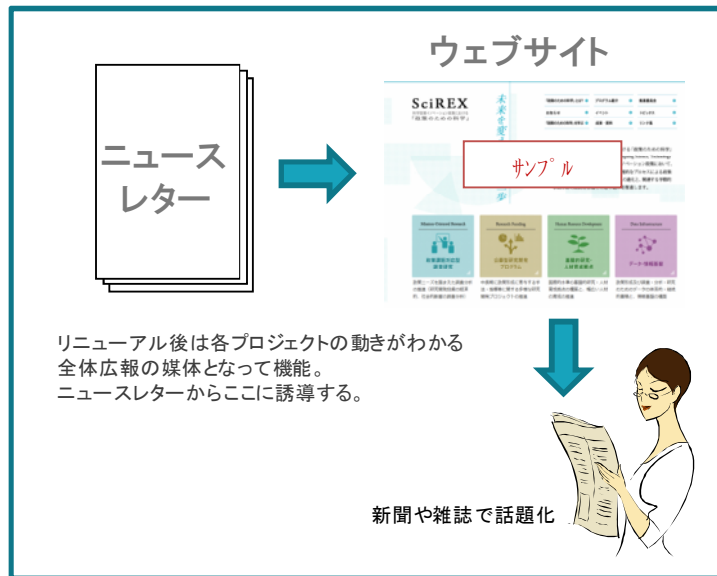


(英語)



d) ニュースレター

- マスコミやスポークスマンとなる人に、定期的に情報を提供するためのツール。
- 最新情報や話題性のある情報を取り上げて、ターゲットの関心を喚起し、当該事業の存在の認知、内容の理解促進を目指す。
- メディアなどを通じて市民社会に「拡散」することにより、広く社会的な認知促進を目指す。
- 一方、関係者間にも配信することにより、情報を共有し、相互理解を促進する。
- それぞれの活動現場で活用する潜在的な関心層の「巻き込み」を狙う。



※ニュースレターのひな型: A4 両面1枚 (コンパクトにして読みやすく。詳細はサイトに誘導)

- ・関係者や活動に取り組んでいる人などにインタビュー
- ・事業の意義を伝える「考え」やエピソード、活動を掲載

3. ポータルサイトの改善・充実

(1) 現行サイトの評価（ヒューリスティック調査）

現行サイトについて、ユーザー行動に照らした際の課題と改善点を抽出すべく、以下を目的とした調査を実施した。

| | |
|---------------------|---|
| 1. サイト構造 | ・ 想定されるユーザー行動に照らして、当該ウェブサイト内における階層構造は適切か？ |
| 2. 導線 | ・ 想定されるユーザー行動に照らして、当該ウェブサイトの導線設計は適切か？ |
| 3. ユーザビリティ・アクセシビリティ | ・ 想定されるユーザー行動に照らして、当該ウェブサイトは使い勝手のよいものになっているか？ |
| 4. ソースコード | ・ (X)HTML、CSS が正しくマークアップされているか？ |

※結果整理にあたっては、上記観点に、他サイトの事例などもピックアップして掲載する。
 ※裏付けデータとしてアクセス解析ツール（Google Analytics）を使用する。

1) 調査概要

- ・ 調査名：

SciREX 科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」ポータルサイトヒューリスティック調査

- ・ 対象サイト：<http://scirex.mext.go.jp/>
- ・ 調査目的：ポータルサイト改善・充実の際の効率的な改善指針として活用することを本調査の目的とする。
- ・ 期間：2013年9月2日～9月20日
- ・ 調査手法：WEB ユーザビリティ評価の調査員によるウェブサイトレビュー
- ・ 改修優先度：以下で結果を示す。

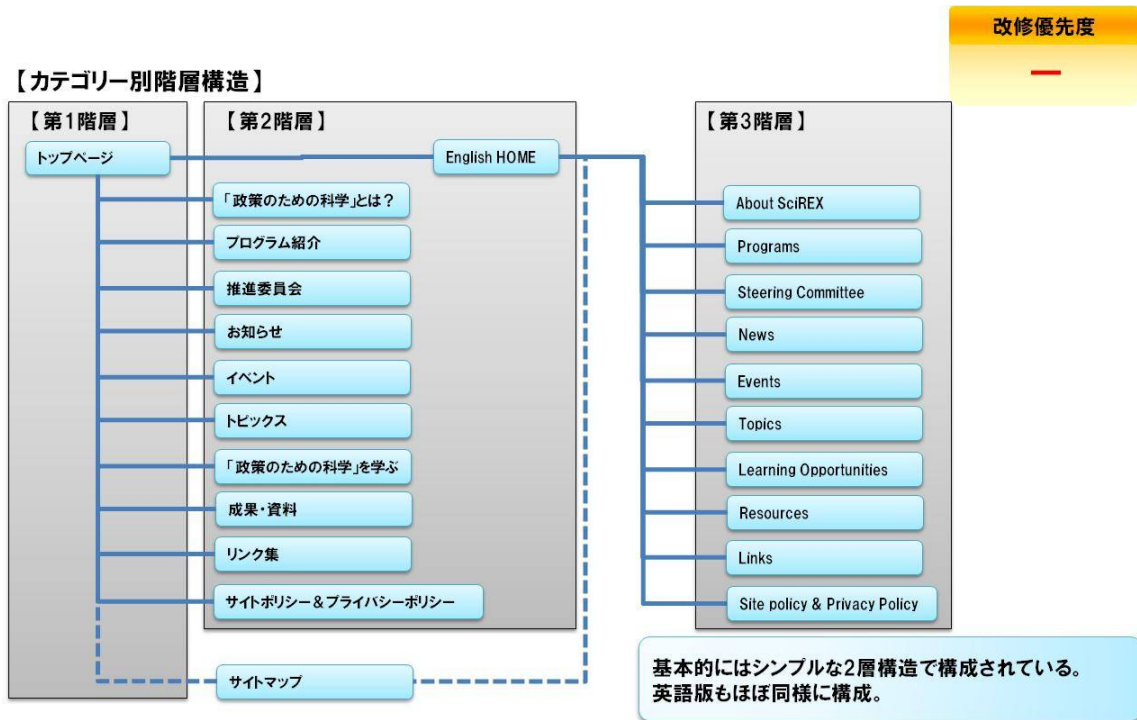


| | |
|---|--------------------------------|
| 高 | 記述ミス・表示崩れなど、早急な改修が必要と思われるもの |
| 中 | 優先度は落ちるが、改修すべきと思われるもの |
| 低 | 概ね問題はないが、改修することで更に良くなるとと思われるもの |
| — | 問題ないと判断する項目 |

2) 調査結果

① サイト構造 :

● ユーザーにとって分かりやすいサイト階層構造になっているか?



サイトマップが日本語版と英語版で共通のものを使用している。
ベースが日本語版のため、英語しわからないユーザーにはわかりづらい。

改修優先度
中



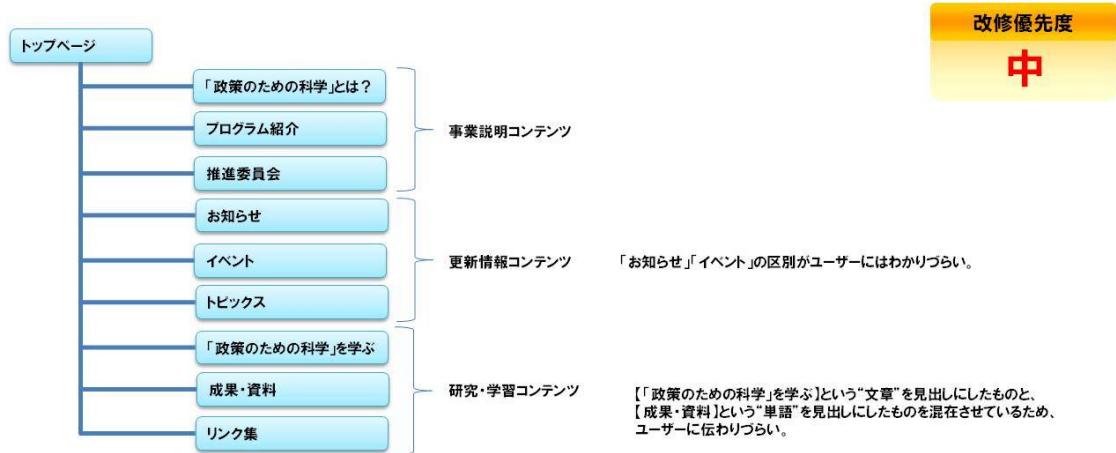
タイトルや見出し・ナビゲーションが日本語。

リンク部分のみ英語で表記されている。

サイトマップ

日本語版と英語版、それぞれにサイトマップを用意したほうがよい。

●ユーザーにとってわかりやすいカテゴリ区分になっているか？



カテゴリは大きく3つに分けられる。が、一見しただけではその分類はわかりづらい。場合によっては、シンプルな構造にするためカテゴリ区分を一度解体して再構成する必要がある。

●タイトルは「ページの内容 サイト名」の順番になっているか？

改修優先度
—

「ページの内容 サイト名」の順番に表記し、具体的内容を先に表示させることで、ページの内容把握が容易に可能となる。

<http://scirex.mext.go.jp/about/index.html>

<title>「政策のための科学」とは？ | SciREX 科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」</title>

<http://scirex.mext.go.jp/events/index.html>

<title>イベント | SciREX 科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」</title>

<http://scirex.mext.go.jp/resources/index.html>

<title>成果・資料 | SciREX 科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」</title>

ページタイトルの表記については問題なく表記されており、わかりやすい。

●言語別ページにおいてコンテンツに差異は存在しないか？

改修優先度
中

英語版のサイトポリシー&プライバシーポリシーだが、一部日本語のままに掲載されている。



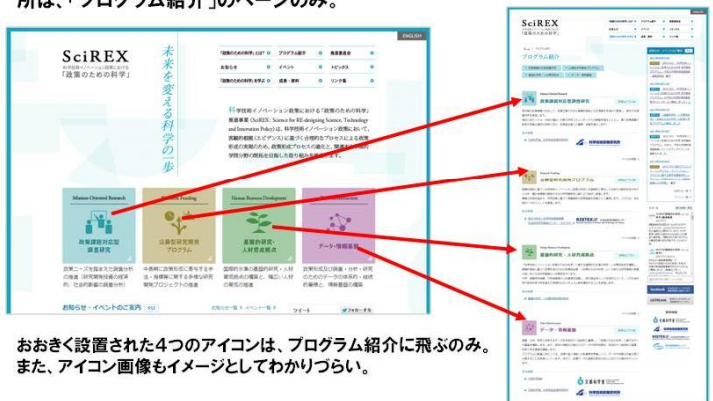
各言語ユーザーが戸惑うことなく、Webサイトのコンテンツをきちんと掲載する必要がある。

②導線：

●トップページから下層ページへのリンクはわかりやすいか？

改修優先度
中

トップページから下層ページへの導線として、誘導したい場所が不明確。ポータルサイトとして考えるならば、お知らせ、イベント、トピックスなどの更新情報に繋げていく必要があるが、実際に誘導している場所は、「プログラム紹介」のページのみ。

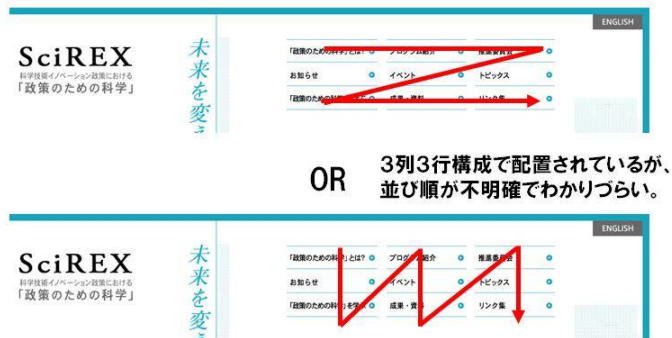


本来誘導したい箇所を明確に設定したうえで、よりわかりやすい導線設計(デザイン・構成)を行う必要がある。

●グローバルナビゲーションの設置場所は適切か？

改修優先度
中

グローバルナビゲーションがページ右上部に配置されている。
一般的なWebサイトとは異なり、一見してグローバルナビゲーションには見えない。



情報サイトなどの場合はWeb標準的な仕様を採用したほうが良い。
ユーザーを戸惑わせずに、グローバルナビゲーションは左から右、もしくは上から下の直線構成にすべき。

●下層ページのナビゲーションはわかりやすいか？

改修優先度
中

下層ページがカテゴリ毎に1ページしか存在しないため、ローカルナビゲーションは存在していない。
同一ページ内の該当箇所に飛ぶ「アンカーリンク」のみ存在する。



拡張性を考慮したページ構成を取ったうえで、ローカルナビゲーションを配置するなど一般的なWebサイトとしての機能が必要。

●リンク切れは存在するか？

改修優先度
済

「政策のための科学」を学ぶページ内の「採択拠点」の段落について、構想概要の紹介資料部分でPDFなどへのリンクが切れている。

- http://scirex.mext.go.jp/test/learning/download/GRIPS.pdf
- http://scirex.mext.go.jp/test/learning/download/tokyo_u.pdf
- http://scirex.mext.go.jp/test/learning/download/hitotsubashi_u.pdf
- http://scirex.mext.go.jp/test/learning/download/osaka_kyoto_u.pdf
- http://scirex.mext.go.jp/test/learning/download/kyushu_u.pdf

設定されているリンクURLを確認すると、テスト用のディレクトリと思われる箇所に接続しようとしていることが判明。

※その他、別ページにおいてもリンク切れ箇所を確認。

**再公開時に
修正済み**

http://scirex.mext.go.jp/learning/index.html

赤枠部分のリンクが
403エラー箇所→

The screenshot shows a table with two main sections: (1) 採択拠点 (Selected Sites) and (2) 採択拠点概要 (概要) (Selected Sites Overview). Each section contains a list of sites with columns for '採択拠点' (Selected Site) and '概要' (Overview). In both sections, the links for 'GRIPS' and 'Hitotsubashi University' are highlighted with red boxes, indicating they are broken links.

ユーザーが資料をダウンロードすることが出来ず、また、テスト用ディレクトリ名を表示してしまっており、セキュリティ的にも望ましくはないため、早急に修正すべき。

●更新情報の掲載頻度は適切か？ ※2013年9月20日現在

改修優先度
中

Webサイトにおいては、一定の頻度で更新されていることがわかるとユーザーは「活きているサイト」として認識する。更新がなされていないと、「放置されたサイト」として認識されてしまい、再度訪問することが無くなってしまう恐れがある。

This block contains several screenshots. On the left, there are three panels showing website content: 'お知らせ' (Notice) with a date of 2013年04月12日, 'イベント' (Event) with a date of 2013年04月12日, and 'トピックス' (Topics) with a date of 2013年04月12日. A text box below these panels states: 「お知らせ」「イベント」「トピックス」のどれも4月12日を最後に、数ヶ月間更新されていない。 On the right, there are two screenshots of social media pages: a Facebook page for 'SciREX' and a Twitter page for 'SciREX'. The Facebook page shows a post from 2013年04月12日. The Twitter page shows a tweet from 2013年06月11日.

更新計画などを定め、きちんと運用していく必要がある。

なお、Twitterは、6月11日、Facebookは、7月2日以来更新されていない。

●どのページからでもホームに戻れるようになっているか？



全てのページにおいてホーム(/index.html)に容易に戻ることが出来なければならない。



赤枠部分をクリックでホームに戻ることが可能。

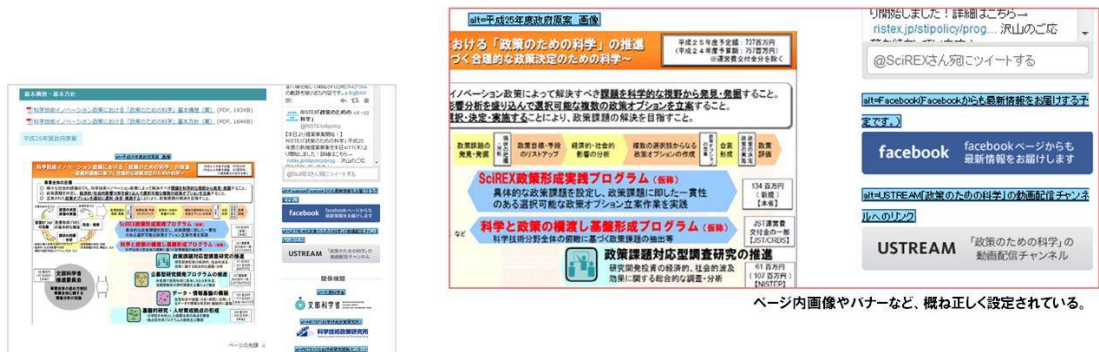
ロゴマーク、パンくずナビゲーションなどからホームに戻ることが出来る。

③ユーザビリティ・アクセシビリティ

●画像に ALT テキストは設定されているか？



視覚的に読み取れないユーザーに配慮し、画像にはalt属性を使用する。
alt属性を使用して、必要情報を記述しておくことで、音声対応ブラウザなどできちんと読み上げてもらえる。



ページ内画像やバナーなど、概ね正しく設定されている。

そもそも画像が少なく、特に問題はない。

●文字の大きさは適切か？

改修優先度

低

全体的に文字サイズが小さく読みづらい。また、近年のホームページに多く実装されている「文字サイズ変更機能」が実装されていない。本来はWebブラウザで任意に変更できる文字サイズであるが、明示的に当機能を実装しているホームページも多い。



文字サイズ: 小 中 大

文字サイズ変更機能も実装されている。

■NHK NEWSweb:記事ページ
幅広い年齢層のユーザーを考慮し、読みやすさを重視した大きめの文字サイズに設定されている。

文字サイズを大きめに設定し、変更機能を実装する。

●文章の行間は読みやすくなっているか？

改修優先度

—



文章中における行間は、適切な間隔で開けられており、読みやすい。

<http://scirex.mext.go.jp/about/index.html>

文章の行間は適切な間隔で問題はない。

●本文の文字は画像化していないか？

改修優先度
低

コンテンツ本文の文字を見栄えだけのために画像化してしまうと、音声ブラウザなどで正しく読み取ることが出来なくなる可能性がある。可能な限り、画像化せず、テキストとして表示すべきである。



わざわざ画像化して配置しているが、テキストでも十分だと思われる箇所

テキスト化出来る箇所は、可能な限りテキストで表示する。

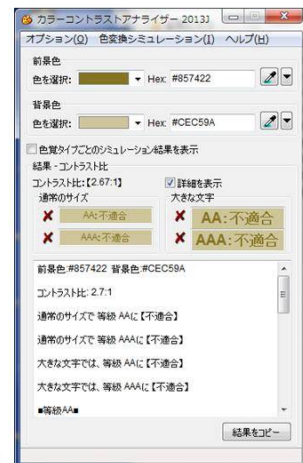
●文字色と背景色の組み合わせを考え、コントラストを十分にとっているか？

改修優先度
低

部分的にコントラスト比が十分でない箇所が存在する。



カラーコントラストアナライザ2013を使用して、チェックしてみると、コントラスト比が十分でないことがわかる。



コントラスト比をチェックしながらサイト制作を行う必要がある。

●ファビコンは設定されているか？

改修優先度
低

タブブラウザでの表示された際やお気に入りに登録した際に、ひとめで判別がつくようにファビコンを設定することが望ましい。

※(ファビコン)は、ウェブサイトのシンボルマーク・イメージとして、ウェブサイト運営者がウェブサイトやウェブページに配置するアイコンの俗称である。



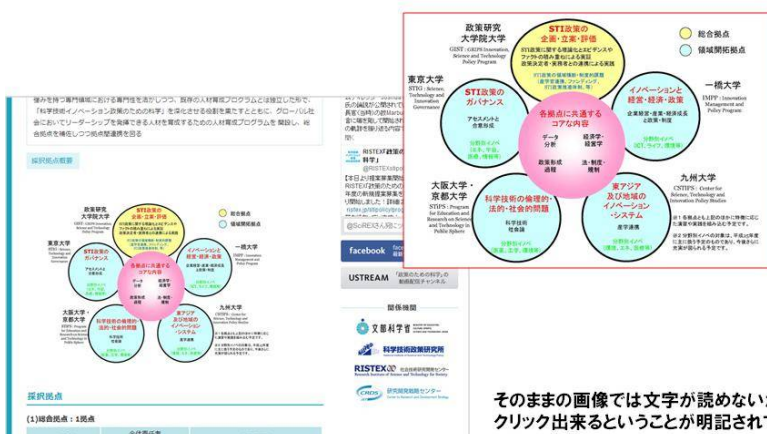
ファビコン画像を作成し、設定する。

なお、文部科学省ホームページ自体も設定されていない。

●HTML ページ以外へのリンクは事前に知らせているか？

改修優先度
中

HTMLではない、PDFや画像などへのリンクの場合、クリックした場合、該当ファイルが開くことを明示する必要がある。



そのままの画像では文字が読めないため、クリックで画像が拡大表示される仕様だが、クリック出来るということが明記されておらず、わかりづらい。

<http://scirex.mext.go.jp/learning/index.html>

画像拡大は画像をクリックする、ということをユーザーに伝える。

●表示に不具合はあるか？

改修優先度
済

「政策のための科学」を学ぶページにおいて、右側に配置しているサイドエリアが下方にズレて表示されてしまっている。

表示を制御しているCSSの記述の仕方に問題があると思われる。

再公開時に
修正済み

IE8
Google chrome
Forefox
などのブラウザで確認



http://scirex.mext.go.jp/learning/index.html
左のメインコンテンツエリアの終了位置から表示されていた。

表示チェックを行い早急に修正すべき。
定期的なチェックを行い、再発を防ぐなどの処置も必要。

⑤アクセス解析

●訪問数とユーザー数



全体的に訪問数・ユーザー数は少ない。
土日のアクセスは、下がる傾向にある。

| 日 | 訪問数 | ユーザー数 |
|-------|-----|-------|
| 8月1日 | 25 | 19 |
| 8月2日 | 14 | 12 |
| 8月3日 | 4 | 4 |
| 8月4日 | 7 | 7 |
| 8月5日 | 21 | 21 |
| 8月6日 | 23 | 20 |
| 8月7日 | 23 | 22 |
| 8月8日 | 22 | 21 |
| 8月9日 | 17 | 17 |
| 8月10日 | 9 | 7 |
| 8月11日 | 6 | 6 |
| 8月12日 | 18 | 17 |
| 8月13日 | 9 | 9 |
| 8月14日 | 17 | 14 |
| 8月15日 | 31 | 24 |
| 8月16日 | 18 | 16 |
| 8月17日 | 2 | 2 |
| 8月18日 | 3 | 3 |
| 8月19日 | 19 | 19 |
| 8月20日 | 22 | 19 |
| 8月21日 | 30 | 25 |
| 8月22日 | 18 | 17 |
| 8月23日 | 34 | 29 |
| 8月24日 | 9 | 5 |
| 8月25日 | 10 | 8 |
| 8月26日 | 27 | 24 |
| 8月27日 | 28 | 24 |
| 8月28日 | 31 | 28 |
| 8月29日 | 20 | 19 |
| 8月30日 | 18 | 14 |
| 8月31日 | 14 | 10 |
| | 549 | 482 |

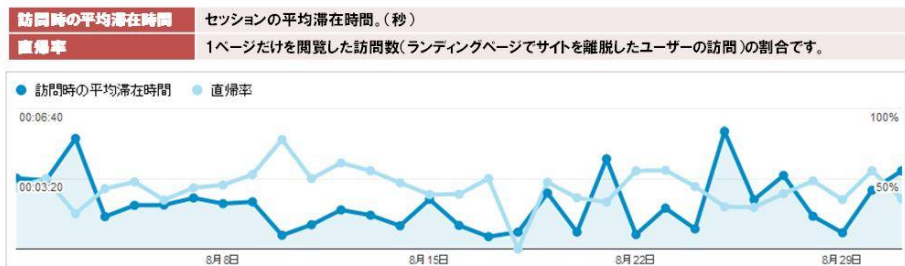
● ページビュー数と訪問別ページビュー



8月21日(水)だけ、突出している。
特に更新もしていないため、原因は不明。

| 日 | ページビュー数 | 訪問別ページビュー |
|-------|---------|-----------|
| 8月1日 | 101 | 4.04 |
| 8月2日 | 46 | 3.29 |
| 8月3日 | 18 | 4.50 |
| 8月4日 | 32 | 4.57 |
| 8月5日 | 82 | 3.90 |
| 8月6日 | 63 | 2.74 |
| 8月7日 | 73 | 3.17 |
| 8月8日 | 43 | 1.95 |
| 8月9日 | 45 | 2.65 |
| 8月10日 | 16 | 1.78 |
| 8月11日 | 15 | 2.50 |
| 8月12日 | 32 | 1.78 |
| 8月13日 | 25 | 2.78 |
| 8月14日 | 71 | 4.18 |
| 8月15日 | 86 | 2.77 |
| 8月16日 | 59 | 3.28 |
| 8月17日 | 4 | 2.00 |
| 8月18日 | 13 | 4.33 |
| 8月19日 | 62 | 3.26 |
| 8月20日 | 60 | 2.73 |
| 8月21日 | 190 | 6.33 |
| 8月22日 | 51 | 2.83 |
| 8月23日 | 79 | 2.32 |
| 8月24日 | 16 | 1.78 |
| 8月25日 | 43 | 4.30 |
| 8月26日 | 98 | 3.63 |
| 8月27日 | 102 | 3.64 |
| 8月28日 | 78 | 2.52 |
| 8月29日 | 48 | 2.40 |
| 8月30日 | 98 | 5.44 |
| 8月31日 | 42 | 3.00 |
| | 1791 | 3.26 |

● 訪問時の平均滞在時間と直帰率



訪問時の平均滞在時間は、日によってバラつきがある。
直帰率にもバラつきがある。
そもそもの訪問母数が少ないため、傾向が判別しづらいものと思われる。

| 日 | 訪問時の平均滞在時間 | 直帰率 |
|-------|------------|--------|
| 8月1日 | 200.60 | 44.00% |
| 8月2日 | 195.43 | 50.00% |
| 8月3日 | 314.00 | 25.00% |
| 8月4日 | 92.00 | 42.86% |
| 8月5日 | 123.52 | 47.62% |
| 8月6日 | 124.96 | 34.78% |
| 8月7日 | 145.17 | 43.48% |
| 8月8日 | 128.59 | 45.45% |
| 8月9日 | 134.06 | 52.94% |
| 8月10日 | 39.00 | 77.78% |
| 8月11日 | 69.00 | 50.00% |
| 8月12日 | 110.67 | 61.11% |
| 8月13日 | 96.44 | 55.56% |
| 8月14日 | 66.00 | 47.06% |
| 8月15日 | 140.52 | 38.71% |
| 8月16日 | 67.44 | 38.89% |
| 8月17日 | 35.00 | 50.00% |
| 8月18日 | 47.67 | 0.00% |
| 8月19日 | 159.21 | 47.37% |
| 8月20日 | 47.55 | 36.36% |
| 8月21日 | 255.93 | 33.33% |
| 8月22日 | 41.00 | 55.56% |
| 8月23日 | 116.32 | 55.88% |
| 8月24日 | 57.00 | 44.44% |
| 8月25日 | 334.40 | 30.00% |
| 8月26日 | 139.89 | 29.63% |
| 8月27日 | 209.14 | 39.29% |
| 8月28日 | 92.97 | 48.39% |
| 8月29日 | 45.75 | 35.00% |
| 8月30日 | 166.89 | 55.56% |
| 8月31日 | 221.57 | 35.71% |
| | 134.66 | 44.08% |

●時間帯別アクセス数

| 時 | 訪問数 | 新規訪問数 | 新規訪問の割合 | 訪問別ページビュー | 平均ページ滞在時間 | 直帰率 | 離脱率 |
|----|-----|-------|---------|-----------|-----------|---------|---------|
| 00 | 9 | 7 | 77.78% | 2.78 | 121.38 | 33.33% | 36.00% |
| 01 | 7 | 5 | 71.43% | 1.57 | 73.75 | 57.14% | 63.64% |
| 02 | 3 | 3 | 100.00% | 6.33 | 34.00 | 66.67% | 15.79% |
| 03 | 5 | 3 | 60.00% | 8.80 | 49.51 | 60.00% | 11.36% |
| 04 | 3 | 2 | 66.67% | 1.33 | 36.00 | 66.67% | 75.00% |
| 05 | 0 | 0 | 0.00% | 0.00 | 0.00 | 0.00% | 0.00% |
| 06 | 2 | 2 | 100.00% | 3.00 | 22.00 | 0.00% | 33.33% |
| 07 | 1 | 0 | 0.00% | 1.00 | 0.00 | 100.00% | 100.00% |
| 08 | 4 | 4 | 100.00% | 2.00 | 27.25 | 50.00% | 50.00% |
| 09 | 42 | 19 | 45.24% | 3.02 | 43.41 | 54.76% | 32.28% |
| 10 | 51 | 32 | 62.75% | 2.47 | 78.75 | 43.14% | 39.68% |
| 11 | 42 | 25 | 59.52% | 3.76 | 73.11 | 28.57% | 27.22% |
| 12 | 33 | 18 | 54.55% | 3.39 | 60.10 | 42.42% | 30.36% |
| 13 | 37 | 22 | 59.46% | 3.81 | 39.32 | 35.14% | 23.40% |
| 14 | 66 | 34 | 51.52% | 4.06 | 56.91 | 42.42% | 24.25% |
| 15 | 34 | 18 | 52.94% | 2.85 | 72.18 | 38.24% | 38.14% |
| 16 | 51 | 28 | 54.90% | 2.90 | 47.36 | 50.98% | 34.46% |
| 17 | 40 | 19 | 47.50% | 3.70 | 79.18 | 37.50% | 25.68% |
| 18 | 33 | 18 | 54.55% | 2.79 | 34.75 | 57.58% | 39.13% |
| 19 | 18 | 11 | 61.11% | 3.00 | 28.00 | 33.33% | 33.33% |
| 20 | 12 | 5 | 41.67% | 3.50 | 94.72 | 58.33% | 30.95% |
| 21 | 23 | 12 | 52.17% | 2.39 | 88.06 | 47.83% | 40.00% |
| 22 | 19 | 12 | 63.16% | 3.63 | 68.41 | 36.84% | 28.99% |
| 23 | 14 | 9 | 64.29% | 2.57 | 36.00 | 64.29% | 38.89% |
| | 549 | 308 | 56.10% | 3.26 | 59.54 | 44.08% | 30.65% |

時間帯別では、日中からのアクセスが多い。

自宅での閲覧より、職場・大学等教育機関などからのアクセスが多いと思われる。

●地域（上位 25 市区町村）

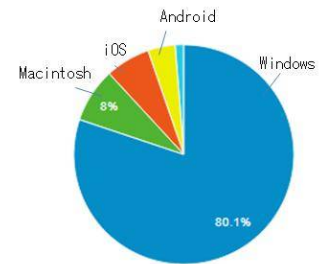
| 市区町村 | 訪問数 | 訪問別ページビュー | 訪問時の平均滞在時間 | 新規訪問の割合 | 直帰率 |
|-------|-----|-----------|------------|---------|--------|
| 千代田区 | 167 | 3.02 | 112.34 | 39.52% | 48.50% |
| 港区 | 39 | 2.97 | 169.67 | 66.67% | 48.72% |
| 京都市 | 33 | 4.18 | 195.27 | 54.55% | 33.33% |
| つくば市 | 21 | 3.38 | 112.38 | 85.71% | 52.38% |
| 文京区 | 19 | 3.89 | 192.00 | 36.84% | 42.11% |
| 横浜市 | 19 | 4.05 | 101.95 | 73.68% | 15.79% |
| 渋谷区 | 16 | 2.25 | 267.88 | 12.50% | 56.25% |
| 大阪市 | 16 | 2.69 | 199.25 | 62.50% | 43.75% |
| 新宿区 | 13 | 3.00 | 35.23 | 84.62% | 46.15% |
| 中央区 | 13 | 3.31 | 40.23 | 53.85% | 53.85% |
| 吹田市 | 12 | 2.42 | 33.92 | 75.00% | 41.67% |
| 世田谷区 | 10 | 4.20 | 267.10 | 50.00% | 30.00% |
| 豊島区 | 10 | 2.50 | 169.30 | 50.00% | 50.00% |
| 神戸市 | 10 | 2.80 | 35.80 | 60.00% | 40.00% |
| 福岡市 | 10 | 3.50 | 144.70 | 60.00% | 20.00% |
| 名古屋市 | 9 | 2.56 | 74.33 | 66.67% | 44.44% |
| 国立市 | 7 | 1.71 | 15.57 | 42.86% | 71.43% |
| 江戸川区 | 6 | 1.50 | 267.33 | 16.67% | 50.00% |
| 墨田区 | 6 | 1.17 | 2.17 | 16.67% | 83.33% |
| 西宮市 | 5 | 2.00 | 7.40 | 100.00% | 40.00% |
| さいたま市 | 5 | 4.20 | 365.40 | 80.00% | 40.00% |
| 江東区 | 4 | 4.00 | 73.25 | 50.00% | 0.00% |
| 大田区 | 4 | 1.75 | 56.50 | 75.00% | 50.00% |
| 川崎市 | 4 | 2.75 | 60.75 | 25.00% | 50.00% |
| 大津市 | 4 | 4.00 | 8.00 | 25.00% | 75.00% |
| | 549 | 3.26 | 134.66 | 56.10% | 44.08% |

千代田区からのアクセスが多い。

その他、京都市・つくば市など、大学等教育機関が多い都市部からのアクセスが目立つ。

● OS とブラウザ

| オペレーティング システム | 訪問数 | 訪問別ページビュー | 訪問時の平均滞在時間 | 新規訪問の割合 | 直帰率 |
|---------------|-----|-----------|------------|---------|--------|
| Windows | 440 | 3.35 | 134.51 | 56.36% | 42.50% |
| Macintosh | 44 | 4.02 | 219.84 | 63.64% | 43.18% |
| iOS | 36 | 2.61 | 50.72 | 61.11% | 52.78% |
| Android | 22 | 1.41 | 86.14 | 36.36% | 63.64% |
| Linux | 7 | 2.43 | 193.00 | 28.57% | 42.86% |
| | 549 | 3.26 | 134.66 | 56.10% | 44.08% |



| ブラウザ | 訪問数 | 訪問別ページビュー | 訪問時の平均滞在時間 | 新規訪問の割合 | 直帰率 |
|----------------------|-----|-----------|------------|---------|--------|
| Internet Explorer | 299 | 3.57 | 128.20 | 54.85% | 41.14% |
| Chrome | 92 | 3.15 | 180.40 | 59.78% | 39.13% |
| Firefox | 72 | 2.58 | 102.74 | 62.50% | 52.78% |
| Safari | 59 | 3.07 | 154.03 | 52.54% | 50.85% |
| Android Browser | 20 | 1.35 | 84.80 | 30.00% | 70.00% |
| Safari (in-app) | 6 | 5.83 | 125.83 | 100.00% | 16.67% |
| IE with Chrome Frame | 1 | 4.00 | 65.00 | 100.00% | 0.00% |
| | 549 | 3.26 | 134.66 | 56.10% | 44.08% |

OSでは、Windowsが圧倒的に多い。
MacのPC、iPhone・iPad、アンドロイド端末という順。
一般的なサイトの傾向からすると、スマホ端末からのアクセスは少なめ。
スマホ端末からだと、PC版と比較してページ遷移が少ない傾向。

ブラウザでは、IEが圧倒的に多い。
Chrome、Firefox、Safari、アンドロイドブラウザ、と続く。

● 検索キーワード一覧（上位 25 位）

| キーワード | 訪問数 | 訪問別ページビュー | 訪問時の平均滞在時間 | 新規訪問の割合 | 直帰率 |
|---|-----|-----------|------------|---------|---------|
| (not provided) 計測不可 | 140 | 3.44 | 138.16 | 57.14% | 45.71% |
| scirex | 42 | 4.17 | 244.81 | 30.95% | 33.33% |
| 政策のための科学 | 20 | 5.30 | 291.55 | 70.00% | 25.00% |
| 科学技術イノベーション | 7 | 3.29 | 226.43 | 71.43% | 42.86% |
| scirex 科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」 | 6 | 8.33 | 495.67 | 16.67% | 0.00% |
| 科学技術イノベーション政策 | 5 | 2.60 | 189.00 | 80.00% | 40.00% |
| 科学技術イノベーション政策のための科学 | 3 | 2.67 | 146.33 | 100.00% | 33.33% |
| 科学技術イノベーション政策の科学 | 3 | 7.00 | 233.67 | 33.33% | 33.33% |
| crds scirex | 2 | 5.00 | 135.00 | 0.00% | 0.00% |
| scisip | 2 | 1.50 | 182.50 | 0.00% | 50.00% |
| 科学技術政策のための科学 | 2 | 3.00 | 86.00 | 50.00% | 50.00% |
| 「establishment of hub institutions for fundamental research and human resource development program」 | 1 | 1.00 | 0.00 | 0.00% | 100.00% |
| 衛エムツー・コンベンション | 1 | 2.00 | 192.00 | 100.00% | 0.00% |
| 「科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」推進事業」 | 1 | 3.00 | 14.00 | 100.00% | 0.00% |
| 「社会の中の、社会のための科学技術イノベーションの推進」シンポジウム | 1 | 1.00 | 0.00 | 100.00% | 100.00% |
| 2013年 科学技術 プロジェクト 採択 | 1 | 2.00 | 16.00 | 100.00% | 0.00% |
| establishment of hub institutions for fundamental research and human resource development program | 1 | 1.00 | 0.00 | 0.00% | 100.00% |
| facebook 文部科学省 人材 | 1 | 2.00 | 74.00 | 100.00% | 0.00% |
| jan slaman | 1 | 1.00 | 0.00 | 100.00% | 100.00% |
| jst 政策と科学 | 1 | 3.00 | 56.00 | 100.00% | 0.00% |
| scirex international symposium | 1 | 2.00 | 74.00 | 100.00% | 0.00% |
| scirex イベント | 1 | 3.00 | 29.00 | 0.00% | 0.00% |
| scirex 黒田 | 1 | 1.00 | 0.00 | 100.00% | 100.00% |
| scirex 政策実践プログラム | 1 | 11.00 | 521.00 | 0.00% | 0.00% |
| scirex-ristex | 1 | 4.00 | 42.00 | 100.00% | 0.00% |

Google Analyticsの仕様変更により、徐々に検索キーワードが暗号化され計測出来なくなっている影響で、計測不可が最も多い。

それ以外では、「scirex」「科学技術イノベーション」などの指名系キーワードが多い。
予め当ポータルサイトの存在を知ったうえで訪問していると思われる。

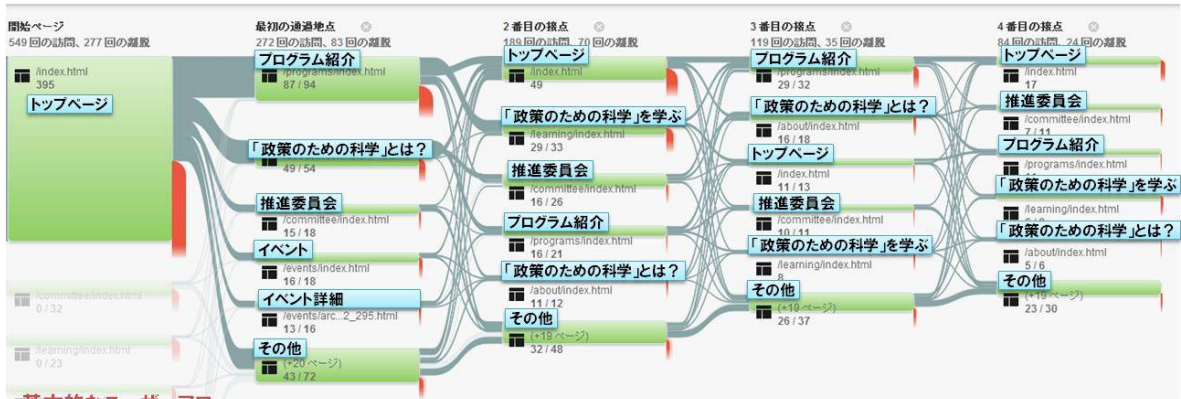
●上位のコンテンツ（上位 25 位）

| ページタイトル | ページビュー数 | ページ別訪問数 | 閲覧開始数 |
|--|---------|---------|-------|
| SciREX 科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」 | 563 | 407 | 395 |
| プログラム紹介 | 235 | 140 | 5 |
| 「政策のための科学」とは？ | 164 | 95 | 15 |
| 「政策のための科学」を学ぶ | 162 | 84 | 23 |
| 推進委員会 | 145 | 84 | 32 |
| 【RISTEX】「科学技術イノベーション政策のための科学 研究開発プログラム」平成25年度新規提案募集 募集説明会 イベント | 47 | 41 | 15 |
| イベント | 47 | 39 | 2 |
| 成果・資料 | 47 | 33 | 3 |
| 第12回 推進委員会 SciREX 科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」 | 42 | 20 | 0 |
| SciREX : Science for RE-designing Science, Technology and Innovation Policy | 33 | 26 | 14 |
| お知らせ | 27 | 16 | 1 |
| トピックス | 23 | 15 | 1 |
| リンク集 | 21 | 17 | 1 |
| 第10回 推進委員会 SciREX 科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」 | 17 | 9 | 0 |
| Programs SciREX : Science for RE-designing Science, Technology and Innovation Policy | 16 | 9 | 1 |
| 【基盤的研究・人材育成拠点】「政策のための科学」の新規大学院プログラムが開始しました お知らせ | 15 | 12 | 0 |
| 第1回 推進委員会 SciREX 科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」 | 15 | 5 | 0 |
| 第11回 推進委員会 SciREX 科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」 | 13 | 8 | 0 |
| Learning Opportunities SciREX : Science for RE-designing Science, Technology and Innovation Policy | 11 | 10 | 3 |
| 【海外動向】米国SciSIPプログラムの新規採択プロジェクトが決定。 トピックス | 10 | 6 | 6 |
| About SciREX SciREX : Science for RE-designing Science, Technology and Innovation Policy | 10 | 9 | 0 |
| 【RISTEX】採択プロジェクト・シンポジウムイノベーション・プロセスに関する産学官連携研究シンポジウム「半導体及びバイオ・医薬品産業からの知見」 イベント | 9 | 9 | 0 |
| 【NISTEP】博士課程修了者の状況把握のシステム設計 - 博士人材データベースの構築背景および海外の博士課程修了者調査 - 成果・資料 | 8 | 6 | 2 |
| 【東京大学 STIG 第2回国際シンポジウム】科学技術イノベーションプロセスのためのエビデンスの使用と人材育成 イベント | 8 | 6 | 5 |
| 【第5回 STIG Policy Platform セミナー】ワークショップ「宇宙政策とガバナンス」 イベント | 7 | 7 | 6 |

トップページが圧倒的に多い。以下、「プログラム紹介」「政策のための科学とは？」「政策のための科学を学ぶ」と続く。

「イベント・お知らせ・トピックス」の更新情報は、更新自体なされていないため、閲覧数も少なめ。

●ユーザーフロー



離脱を除き、サイト内での最も多い行動は、トップページの4つのボタンから誘導される「プログラム紹介」へ遷移していくパターン。

一般的には、グローバルナビゲーションの配置順に遷移していくパターンが多く見受けられるが、当サイトに関しては、そのような動きはあまり見られない。

ユーザーニーズに沿ったコンテンツの配置となっていない可能性がある。

3) まとめ

| 改修優先度 | 個数 |
|-------|----|
| 高 | 0 |
| 中 | 8 |
| 低 | 4 |

全体的には、特に悪くない結果がでている。

サイト構造的には、ボリュームも少ないため、大きな問題はほとんど存在しない。改修優先度が高い、リンク切れやエラーページなどのセキュリティ的に不備な箇所は、サイトの再公開時に改修しており、緊急に対処しなければならない点はない。

サイト構成として、一般的な Web サイトを基準とした同様の配置や操作感を実装していくべきだと思われる。そのためには、小手先の改修ではなく根本から見直し、拡張性を備えたサイト設計・構成にしていく必要がある。

サイトの性格としては、情報ポータルサイトなので、可能な限り更新頻度を高め、「活きているサイト」としてユーザーに認識してもらい、再訪問してもらえるようにすべきである。

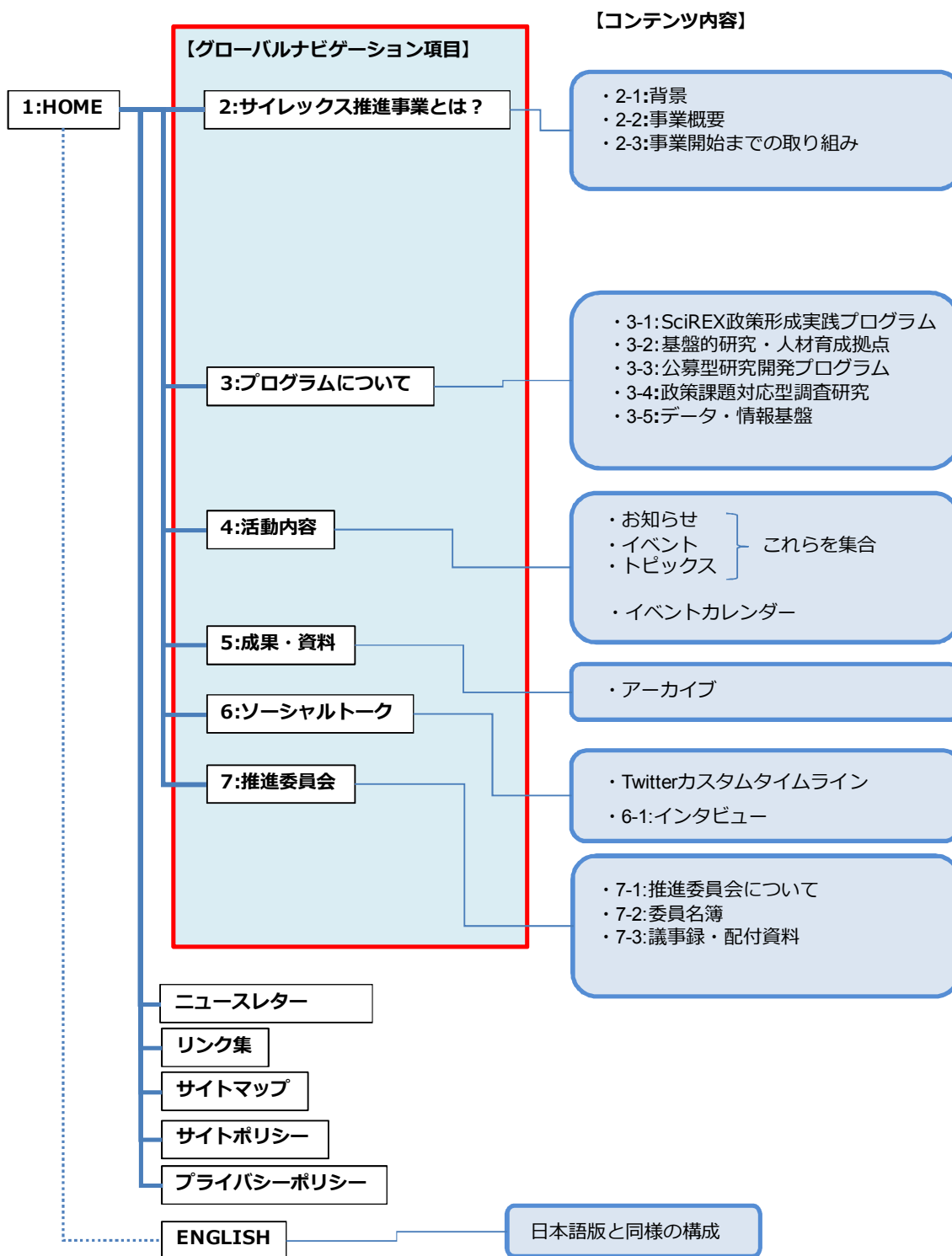
アクセス解析の観点からは、そもそもの訪問数などが少ないため、あくまで目安として捉える必要があるが、コンテンツの配置順などユーザーニーズに沿っていない可能性があるため、改善の余地があると思われる。

また、デザイン的な視点では、「インパクト」という部分は弱めである。下手に派手にして「品がない」サイトデザインにする必要性は全くないが、図やイラスト・写真など、視覚的にもわかりやすい工夫を施すなど、もう少しメリハリがあっても良いかと思われる。

(2) 改善サイト（案）の構成

1) サイトマップ

- ・ 拡張性・更新性を考慮した Web サイト構造設計を行う。
- ・ カテゴリーの整理を行い、シンプルに分かりやすくする。



2) HOME

- ・下層ページへのスムーズな誘導を行う。
- ・情報ポータルとして、関係機関サイトの情報を集約表示する。

The image shows a screenshot of the SciREX website home page with several callout boxes pointing to specific features:

- Webサイトロゴ。簡潔な説明文と共に掲載**: Points to the SciREX logo and its tagline.
- 文字サイズの変更機能を実装**: Points to the text size adjustment buttons (small, medium, large).
- グローバルナビゲーションの項目をわかりやすく整理・統合**: Points to the top navigation menu.
- 複数のコンテンツのイメージ画像がスライド形式で一定時間毎に切り替わる**: Points to the main banner image.
- 視覚的にわかりやすくするため、掲載記事を画像と共にピックアップボックスとして紹介**: Points to the 'ピックアップボックス' (Pickup Boxes) section.
- イベントカレンダー、ニュースレターへのリンク**: Points to the 'イベントカレンダー' and 'ニュースレター' buttons.
- ソーシャルメディアへのリンク**: Points to the social media icons (Facebook, Twitter).
- 関係機関へのダイレクトリンク**: Points to the grid of partner organization logos (GiST, RISTEX, CRDS, STIG, iMPP, STIPS, CSTIPS).
- お知らせ欄では、ポータルサイトとしての役割を担うため、情報発信機関名（RISTEX、STIPSなど）を明記し、時系列で表示**: Points to the 'ピックアップボックス' section.
- サンプル**: A red box highlights a specific article in the 'ピックアップボックス' section.
- フッターエリア**: Points to the footer area containing contact information and navigation links.

3) カテゴリーインデックスページ

- ・拡張性を考慮した、カテゴリーインデックスページを設置する。
- ・ユーザーにとってサイト構造が分かりやすくなり迷わない構成となる。

ローカルナビゲーション
下層ページのメニューを表示

下層ページの項目を、
簡単な説明文と共に
ボタンのように配置

~フッターエリア省略~

◆カテゴリーインデックスページ適用箇所

- 2:サイレックス推進事業とは?
- 3:プログラムについて
- 7:推進委員会

4) 下層詳細ページ

- ・同カテゴリ内での横移動も容易に出来るローカルナビゲーションを設置する。
- ・1つの内容につき1ページを割り当て、よりシンプルに分かりやすくする。

～フッターエリア省略～

◆下層詳細ページ適用箇所

2:サイレックス推進事業とは?

3:プログラムについて

7:推進委員会

その他:リンク集、サイトマップなど

5) 活動内容

- ・情報ポータルとして、関係機関サイトの情報集約表示を行う。
- ・カテゴリーリストを掲載し、カテゴリー毎に記事を表示出来る仕様とする。

The screenshot shows the SciREX website interface. At the top, there's a navigation bar with 'HOME' and '活動内容' (Activities). The main content area is titled '活動内容' and lists various events and news items with dates and category icons (e.g., 'トピックス', 'イベント', 'お知らせ'). On the right side, there's a sidebar with a category list, an 'アーカイブ' (Archive) section, and social media links for Twitter, Facebook, and USTREAM Channel. Below the sidebar are logos for partner organizations like the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT), NISTEP, RISTEX, and CRDS. Callouts in red boxes point to specific features: '「お知らせ」「イベント」「トピックス」を最新の順に時系列で表示' (Display 'News', 'Events', and 'Topics' in chronological order from latest); '「お知らせ」「イベント」「トピックス」のカテゴリー毎に表示させるリンク' (Links to display by category for 'News', 'Events', and 'Topics'); '年毎の表示をさせるリンク' (Link to display by year); 'イベントカレンダーへのリンク' (Link to the Event Calendar); '公開後、2週間はNEWアイコンが自動的に付加される' (After publication, a NEW icon is automatically added for 2 weeks); '最新10件を表示させ、それ以前のの記事は、自動的にページ遷移' (Display the latest 10 items, and automatically page transition for previous articles); '「お知らせ」「イベント」「トピックス」のカテゴリー毎のアイコンが付く' (Category icons are added for 'News', 'Events', and 'Topics'); and '～フッターエリア省略～' (Footer area omitted).

記事には情報発信機関名が表示される。

情報発信機関名は追加可能に
初回実装分

- ・ 文部科学省
- ・ GRIPS科学技術イノベーションプログラム (GIST)
- ・ 科学技術・学術政策研究所 (NISTEP)
- ・ 社会技術研究開発センター (RISTEX)
- ・ 研究開発戦略センター (CRDS)
- ・ 科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」基盤的研究・人材育成拠点整備事業 (STIG)
- ・ イマジネーションマネジメント・政策プログラム (IMPP)
- ・ 公共圏における科学技術・教育研究拠点 (STIPS)
- ・ 科学技術イノベーション教育研究センター (CSTIPS)

SciREX 科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」を推進しています。
サイレックス事業

ENGLISH

文字サイズ 標準 大

サイレックス推進事業とは? | プログラムについて | 活動内容 | 成果・資料 | ソーシャルトーク | 推進委員会

HOME > 活動内容 > お知らせ

活動内容

お知らせ

2013年12月10日 [【文部科学省】科学技術イノベーション政策のための科学推進委員会（第13回）の開催について](#)
お知らせ 文部科学省

2013年04月12日 [【RISTEX】「科学技術イノベーション政策のための科学 研究開発プログラム」の平成25年度新規提案募集を4/11（木）より開始しました！](#)
お知らせ 文部科学省

2013年04月01日 [【基礎的研究・人材育成拠点】「政策のための科学」の新規大学院プログラムが開始しました](#)
お知らせ 科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」

2013年03月18日 [お知らせ](#)

2013年02月05日 [お知らせ](#)

2012年12月20日 [科学技術振興機構研究開発戦略センター公募情報](#)
お知らせ 科学技術イノベーション教育研究センター（CSTIPS）

2012年12月18日 [サイト改修のお知らせ](#)
お知らせ 文部科学省

2012年10月10日 [科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」ポータルサイトのアドレスは本ドメイン「scirex.mext.go.jp」に変更しました](#)
お知らせ 科学技術学術政策研究所（NISTEP）

2012年10月10日 [科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」の英語名称がSciREX : Science for RE-designing Science, Technology and Innovation Policyになりました。](#)
お知らせ 科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」

1/2 1 2 >> 最後>>

活動内容
お知らせ
イベント
トピックス

アーカイブ
年別アーカイブ ▾

イベントカレンダー
EVENT CALENDAR

Twitter
Facebook
USTREAM Channel

関係機関
文部科学省
科学技術政策研究所
RISTEX
研究開発戦略センター

「お知らせ」を最新の順に時系列で表示

～フッターエリア省略～

SciREX 科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」を推進しています。サイレックス事業

ENGLISH

文字サイズ 標準 大

サイレックス推進事業とは? プログラムについて 活動内容 成果・資料 ソーシャルトーク 推進委員会

HOME > 活動内容 > 【第8回Stips handai研究会】学生研究発表 開催報告

活動内容

トピックス

2014年03月26日

【第8回Stips handai研究会】学生研究発表 開催報告

文部科学省

共有する

【第8回Stips handai研究会】学生研究発表 開催報告



研究会の様子

[研究会公式サイト](#)

サンプル

> 活動内容

> お知らせ

> イベント

> トピックス

アーカイブ

年別アーカイブ

イベントカレンダー
EVENT CALENDAR

Twitter

Facebook

USTREAM Channel

関係機関

文部科学省

詳細記事では、一つの画像、及びテキストリンクが容易に掲載できる仕様

※複数画像・複数リンクを掲載したい場合はこれまで同様HTMLとして記述

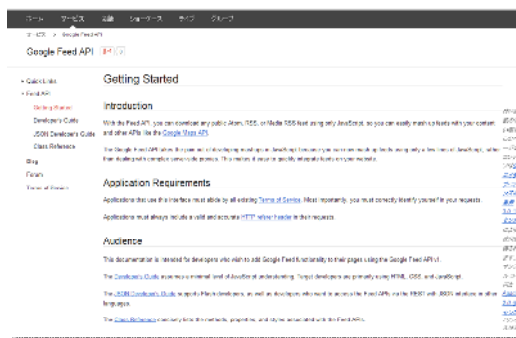
～フッターエリア省略～

6) 活動内容の情報自動集約表示について

今回の改善時に実装はしていないが、RSS を出力している他の関連サイトから情報を自動取得し、時系列で表示させることは可能である。

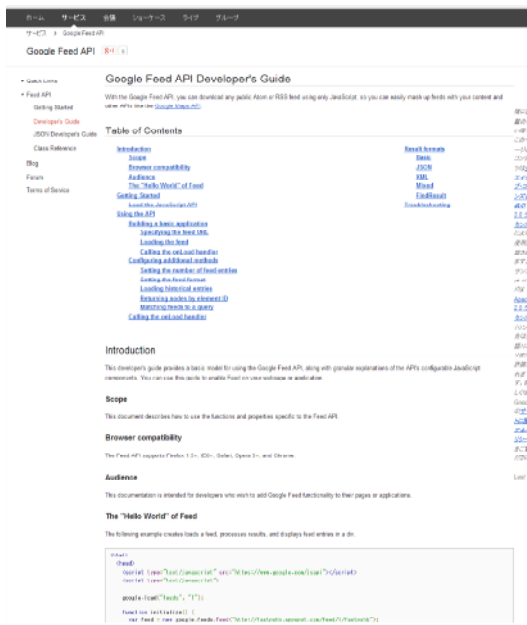
■ 「Google Feed API」の使用を想定。

<https://developers.google.com/feed/?hl=ja>



使用方法の詳細は、**デベロッパーズガイド**を参照してください。

<https://developers.google.com/feed/v1/devguide?hl=ja>



7) イベントカレンダー

イベントカレンダーの登録に関しては、 イベント実施日に基づくイベントカレンダー登録が必要となるため、 お知らせとしてのイベント告知は、別途記事として登録する必要があります。

The screenshot shows the SciREX website's event calendar. The main calendar for March 2014 has a red box labeled 'サンプル' (Sample) over the date 27. Below the calendar, there are social media links for Twitter, Facebook, and USTREAM Channel. A detailed event page is shown on the right, with a red box labeled 'サンプル' over the event title: '【NISTEP】データ・情報基盤の活用に関するワークショップ～政策形成を支えるエビデンスの充実に向けて～'. The event details include the date (2014年2月20日), time (13時00分～18時00分), location (科学技術・学術政策研究所), and contact information.

イベントの日時を登録することで、カレンダーにプロットされる。期間を入力すると、その長さ分のエリアとなる。

プロットされた項目をクリックして、イベントの詳細記事、または指定した外部URLに飛ぶ。

詳細記事表示例

8) 成果・資料

- ・ カテゴリー毎、および年数で記事を抽出できる仕様とする。
- ・ 情報アーカイブとして機能させる。

基本的な仕様は、「活動内容」と同様。

任意のカテゴリー毎に、記事をソート出来る仕様

年でもソート出来る仕様

記事10件毎にページを切り替えられる

記事タイトルクリックで詳細ページに飛ぶ

サンプル

～フッターエリア省略～

情報発信機関毎に表示させるリンク

- ・ 文部科学省
- ・ GRIPS科学技術イノベーションプログラム (GIST)
- ・ 科学技術・学術政策研究所 (NISTEP)
- ・ 社会技術研究開発センター (RISTEX)
- ・ 研究開発戦略センター (CRDS)
- ・ 科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」基盤的研究・人材育成拠点 整備事業 (STIG)
- ・ イマジンেশョンマネジメント・政策プログラム (IMPP)
- ・ 公共圏における科学技術・教育研究拠点 (STIPS)
- ・ 科学技術イノベーション教育研究センター (CSTIPS)

9) ソーシャルトーク

- Twitter カスタムタイムラインを掲載。ハッシュタグ#scirex と付いた情報を集約表示させる。
- ソーシャルメディア上で議論を交わすことが出来るイメージ。

SciREX 科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」を推進しています。サイレックス事業

ENGLISH

文字サイズ 標準 大

サイレックス推進事業とは? プログラムについて 活動内容 成果・資料 ソーシャルトーク 推進委員会

HOME > ソーシャルトーク

ソーシャルトーク

SciREXソーシャルトークでは、「政策のための科学」に関する様々な事例について、Twitter上で情報交換・共有を行っております。
参加するには、#scirexをつけてTwitterでつぶやいてください。

#scirex

サンプル

Twitter

Facebook

USTREAM Channel

関係機関

文部科学省

科学技術政策研究所

RISTEX 科学技術政策研究センター

CRDS 研究開発戦略センター

Twitterのカスタムタイムラインを表示。
ハッシュタグ#scirexが記述されたツイートだけを自動収集して表示される仕様

開く

#scirexのハッシュタグ付ツイートを見る

～フッターエリア省略～

10) インタビュー

- ・リニューアル後は各プロジェクトの動きがわかる全体広報の媒体となって機能。
- ・HOME に提示する「ニュースレター」からここに誘導する。

The screenshot shows the 'Interview' page on the SciREX website. At the top, there is a navigation bar with links for 'サイレックス推進事業とは?', 'プログラムについて', '活動内容', '成果・資料', 'ソーシャルトーク', and '推進委員会'. Below this, a breadcrumb trail reads 'HOME > ソーシャルトーク > インタビュー'. The main heading is 'インタビュー'. To the right, there are links for 'ソーシャルトーク' and 'メインパネル・インタビュー Vol. 1', along with social media icons for Twitter and Facebook, and a link to the 'LIVESTREAM Channel'. A section titled '関係機関' (Related Organizations) lists the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology, the Institute of Science and Technology Policy (ISTP), RISTEX (Research Institute of Science and Technology for Society), and CRDS (Center for Research and Development Strategy). A large empty box is present, with a red-bordered label 'サンプル' (Sample) overlaid on it. Below this box, a text box contains the following text: '※有識者へのヒアリング。タイトル、写真、インタビュー記事の掲載等検討。' (※ Consultation with experts. Consideration of titles, photos, and publication of interview articles, etc.). At the bottom, there are two more empty boxes, one on the left and one on the right, and a larger empty box at the very bottom.

11) ニュースレター

- ・ニュースレターを PDF で掲載

ENGLISH

SciREX 科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」を推進しています。サイレックス事業

文字サイズ 標準 大

サイレックス推進事業とは? | プログラムについて | 活動内容 | 成果・資料 | ソーシャルトーク | 推進委員会

HOME > ニュースレター

ニュースレター

2014年7月1日 [ニュースレターVol.3 \(PDF 300KB\)](#)

2014年6月1日 [ニュースレターVol.2 \(PDF 300KB\)](#)

2014年5月1日 [ニュースレターVol.1 \(PDF 300KB\)](#) サンプル

> ニュースレター

Twitter

Facebook

USTREAM Channel

関係機関

文部科学省
MINISTRY OF EDUCATION,
SCIENCE, SPORTS,
SCIENCE AND TECHNOLOGY POLICY

科学技術政策研究所
National Institute of Science and Technology Policy

RISTEX 社会技術研究開発センター
Research Institute of Science and Technology for Society

CRDS 研究開発戦略センター
Center for Research and Development Strategy

～フッターエリア省略～

発行：株式会社 電通パブリックリレーションズ
発行日：2014年3月31日